

Syllabus

保健医療福祉学部 社会福祉学科

2015～2018 年度入学生

授業科目名	文章表現入門 社福			担当者	雲津 英子		
配当学科・研究科	2015～2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 社福 1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	火曜5限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと 論理的な思考		DP4. コミュニケー ション・表現力	
DP5. グローバルな視 野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	本講義のテーマは、大学生、あるいは社会人として必要な日本語の基本的な運用能力の獲得である。 大学生生活では、高度な授業内容を理解し、専門書を読み、発表資料・レポート作成を行い、それを発表する能力が必要となる。 本講義では、そのために必要な日本語力の養成をめざし、学生が、日本語の円滑な運用に必要な重点項目を毎回順番に学修することにより、確実な日本語力を身につけることを到達目標とする。また、「日本語検定」を紹介し、受験に対しての指導も行う。						
授業概要	講義内容は、「敬語」、「文法」、「語彙」、「言葉の意味」、「漢字」、「表記」の6つ領域で構成している。 学生はこれらを順番に学んでいくことにより、日本語の運用能力を一步一步着実に高めていくことができる。 毎回の講義では、小テスト及び復習テストを実施し、学修内容の定着状況を学生自身が確認することでさらなる日本語力向上をめざす。 さらに「日本語検定」への挑戦は、学生自身の今の日本語力を振り返るきっかけになるとともに、今後の日本語学修の目標にもなる。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	単位認定試験（70％）、授業態度（15％）、小テスト・復習テスト（15％）によって総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	小テスト・復習テストは、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しをしておくこと。						
履修条件・注意事項	留学生の受講は可能であるが、「日本語能力試験」のN2（2級）以上の実力がなければ、講義内容の理解は難しい。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、高等学校において進路指導助手としての実務経験を持つ教員が、小論文指導（表記法、文章表現等の指導）の経験を活かし、論文・レポート作成に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	毎回の講義で小テスト及び復習テストを実施するため、予習・復習をして講義に臨むことが必要である。予習および復習は、各2時間程度行うこと。 日本語力の向上には、今の自分の日本語力に対しての気づきと、日々の意識的な努力が必要とされるため、講義以外での学修時間も重要である。 「日本語検定」の受験を目標にして学修に取り組むことが望ましい。						
オフィスアワー	10号館3階の個人研究室（10306）において、毎週火曜日3限、金曜2限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	「日本語検定3級」に挑戦					雲津 英子	
第2回	はじめに					雲津 英子	
第3回	敬語の種類と使い分け					雲津 英子	
第4回	注意すべき敬語					雲津 英子	
第5回	配慮を示す言葉					雲津 英子	
第6回	品詞・活用の種類					雲津 英子	
第7回	ら抜き言葉・さ入れ言葉					雲津 英子	
第8回	文のねじれと言葉の係り受け・あいまい文					雲津 英子	
第9回	接続後・指示語と文章					雲津 英子	

第10回	類義語・対義語	雲津 英子
第11回	動詞の自他・視点	雲津 英子
第12回	文体、話し言葉・書き言葉	雲津 英子
第13回	コロケーション	雲津 英子
第14回	部首・音訓・熟語	雲津 英子
第15回	仮名遣い・送り仮名	雲津 英子
第16回	単位認定試験（筆記試験）	雲津 英子

教科書		
-----	--	--

教・書籍名1	スキルアップ！日本語力ー大学生のための日本語練習帳ー	教・出版社名1	東京書籍
教・著者名1	名古屋大学日本語研究会G K 7	教・ISBN1	978-4-487-80364-4
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書		
-----	--	--

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	文学への招待 社福			担当者	雲津 英子		
配当学科・研究科	2015～2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 社福1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	火曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	<p>1. 貧困をなくそう / 2. 飢餓をゼロに / 3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 5. ジェンダー平等を実現しよう / 10. 人や国の不平等をなくそう / 16. 平和と公正をすべての人に</p> 						
到達目標	<p>本講義のテーマは、詩・俳句・短歌・小説等の文学作品を読み鑑賞することを通して、作者が描いた人間の生き方を間接的に経験し、学生が自分自身の生き方を多様で豊かなものにしていくことである。</p> <p>学生が、その過程において、文学に使われている語彙や巧みな言語表現、文学作品にみられる豊かな構想力を自己のものにし、自己の言語表現能力の向上をめざすとともに、文学作品の鑑賞を通して自分自身の生き方を豊かなものにしていくとする態度を身につけることを到達目標とする。</p>						
授業概要	<p>詩・俳句・短歌・小説等の文学作品について、それぞれの作者や作品を生み出した歴史的背景、あるいは文化的背景に触れ、文学の発達のあらましやそれぞれの時代における文学の特質を学ぶ。また、文学作品を読み、印象に残った作家や作品について調べ発表したり、討論を行う。このような学修活動を通して、作者が描いた人間の生き方を間接的に経験し、自分自身の生き方を豊かなものにするとともに、文学作品を読み、鑑賞することの意義を理解する。さらに、学生の図書館活用能力の向上のため、図書館の活用方法についての学修を行う。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション						
評価方法と割合	<p>レポート試験・受講態度などによって総合的に評価する。</p> <p>レポート試験（70％）、発表・討論への参加（15％）、受講態度（15％）</p>						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題（提出物・レポート）は、授業でフィードバックするので見直しをしておくこと。						
履修条件・注意事項	必要に応じてプリントを配布するため、ファイルを用意すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、大学図書館職員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、図書館の利用方法など、学生の読書活動、論文・レポート作成に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	大学図書館・県立図書館・市立図書館などで本を借りて、自宅においても積極的に読書をし、講義に臨むこと。復習を行い、講義内容を十分に理解した上で、次回の講義を受講すること。予習および復習は、各2時間程度行うこと。						
オフィスアワー	10号館3階の個人研究室（10306）において、毎週火曜日3限、金曜2限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	文学とはなにか					雲津 英子	
第2回	図書館活用方法の理解					雲津 英子	
第3回	図書館活用の実践					雲津 英子	
第4回	日本文学史（1）-上代文学					雲津 英子	
第5回	日本文学史（2）-中古文学					雲津 英子	
第6回	日本文学史（3）-中世文学					雲津 英子	
第7回	日本文学史（4）-近世文学					雲津 英子	
第8回	日本文学史（5）-近代文学					雲津 英子	
第9回	日本文学史（6）-現代文学					雲津 英子	
第10回	夏目漱石・森鷗外・泉鏡花の作品（討論）					雲津 英子	

第11回	芥川龍之介の作品（討論）	雲津 英子
第12回	宮沢賢治の作品（討論）	雲津 英子
第13回	小林多喜二・太宰治の作品	雲津 英子
第14回	詩・俳句・短歌（討論）	雲津 英子
第15回	まとめ	雲津 英子
第16回	単位認定試験（レポート試験）	雲津 英子

教科書		
-----	--	--

教・書籍名1	使用しない（必要に応じプリントを配布する）	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書		
-----	--	--

参・書籍名1	日本文学概論	参・出版社名1	財団法人 放送大学教育振興会
参・著者名1	島内裕子	参・ISBN1	978-4-595-31342-4
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	哲学 社福			担当者	山本 敦之		
配当学科・研究科	2015～2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 社福1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	木曜4限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3. 主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに / 16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	テーマは「歴史の中の哲学」である。哲学という言葉は無造作に使われることが多い。しかし本来哲学は、古代ギリシャに端を発する一つの歴史上の、極めて重要な知的伝統である。そしてそれはある時期まで学問全体を指し、狭義の哲学は「第一哲学」と呼ばれたりした。学生は、各時代の代表的哲学者の思想を通じて、文明の中での学問と狭義の哲学のありようの歴史を知ることになる。これによって学生は、世界と自分について、根底から物事を考える能力を身につけることができる。						
授業概要	古代ギリシャにおける哲学の誕生や初期の展開、プラトンやアリストテレスを通じての哲学の確立、ヘレニズム期の哲学、古代末期の哲学とキリスト教といったことを、ギリシャ世界の拡大と変容、ヘレニズム世界の成立、ローマによる政治的統合といった時代背景の中で理解する。また西欧世界の成立と発展といった文脈の中で、自由学芸、哲学、神学の関係や、諸科学の成立と哲学の変容を理解する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション						
評価方法と割合	小試験(25%)、課題(25%)、定期試験(50%)。評価のための小試験・課題については次回授業で講評によりフィードバックするので、なるべく準備すること。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題については交替で発表をおこなってもらい、ほかの学生からのコメントを求め、これについて教員が論評する。試験については返却時に教員がコメントを附す。						
履修条件・注意事項	数学や論理学、文芸や芸術に対する関心、知的好奇心。毎回プリントを配布するので、ファイルブックを用意しておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	事前に次回講義を受講するための課題を出すので、それについての予習をすること(2時間程度)。また、配布プリントと板書にもとづき復習してノートブックに要点を記入すること(2時間程度)。						
オフィスアワー	月曜5限257研究室						
授業計画						担当者	
第1回	1.「哲学」という言葉の歴史と哲学の始まり					山本	
第2回	初期の「哲学者」たち					山本	
第3回	エレア派とその影響					山本	
第4回	ソクラテスとその影響					山本	
第5回	プラトン					山本	
第6回	アリストテレスの哲学					山本	
第7回	アリストテレスの第一哲学					山本	
第8回	ヘレニズム世界の哲学とローマ帝国の思想状況					山本	
第9回	西欧文明の成立					山本	
第10回	盛期中世の学問状況と14世紀の大変革					山本	
第11回	ルネサンスと科学革命					山本	
第12回	科学革命と政治哲学					山本	
第13回	19世紀における諸科学の成立と哲学					山本	
第14回	科学的心理学の成立と哲学の変容					山本	
第15回	総括					山本	

第16回	定期試験	山本	
教科書			
教・書籍名1		教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	西洋哲学史〈古代から中世へ〉	参・出版社名1	岩波新書
参・著者名1	熊野純彦	参・ISBN1	9784004310075
参・書籍名2	西洋哲学史〈近代から現代へ〉	参・出版社名2	岩波新書
参・著者名2	9784004310082	参・ISBN2	

授業科目名	宗教学			担当者	山本 敦之		
配当学科・研究科	2015～2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 社福1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	テーマは「世界宗教史」である。学生は講義を通じて、現生人類の誕生から新石器時代、文明の誕生を経て、ユーラシア西部や日本にどのような宗教が存在してきたか、そしてそれらが現代の我々にどのような影響を及ぼしているのかを知る。このことを通じ学生は、世界の多様な文化を理解することができる。これが到達目標である。						
授業概要	後期旧石器時代・中石器時代・新石器時代・古代諸文明(メソポタミア、エジプト、カナアン、ギリシャなど)という段階を経て一神教(ユダヤ教、キリスト教、イスラム教)の成立までの流れを追い、そしてそれらの一神教の展開を概観する。これは主としてユーラシア大陸西半部の歴史上の諸宗教の紹介という形をとるが、文字資料のみならず画像などの視覚的情報を多用して、縁遠い時空に生きた人々の精神世界への理解を促したい。また、日本の宗教という話題にも、世界史的観点から言及する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション						
評価方法と割合	評価方法 小試験(25%)、課題(25%)、定期試験(50%)。評価のための小試験・課題については次回授業で講評によりフィードバックするので、なるべく準備すること。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題については交替で発表をおこなってもらい、ほかの学生からのコメントを求め、これについて教員が論評する。試験については返却時に教員がコメントを附す。						
履修条件・注意事項	地理歴史の基礎知識。毎回プリントを配布するので、ファイルブックを用意しておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	事前に次回講義を受講するための課題を出すので、それについての予習をすること(2時間程度)。また、配布プリントと板書にもとづき復習してノートブックに要点を記入すること(2時間程度)。これを次回授業で確認する。						
オフィスアワー	月曜5限257研究室						
授業計画						担当者	
第1回	人類史と宗教：旧石器時代から新石器時代へ					山本	
第2回	日本の縄文時代、弥生時代、古墳時代の宗教					山本	
第3回	文明誕生：メソポタミア					山本	
第4回	エジプト文明					山本	
第5回	古代ギリシャ文明					山本	
第6回	ユダヤ教の成立					山本	
第7回	ヘレニズム期の宗教					山本	
第8回	キリスト教の成立と展開					山本	
第9回	ローマカトリック					山本	
第10回	初期のイスラーム					山本	
第11回	宗教改革とその後					山本	
第12回	日本宗教史：古代・中世・近世					山本	
第13回	現代日本の宗教事情					山本	
第14回	現代世界の宗教事情					山本	
第15回	総括					山本	
第16回	定期試験					山本	
教科書							

教・書籍名1	配布資料	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	心理学 社福			担当者	津川 秀夫、藤原 直子、土居 正人、 橋本 翠、村上 勝典、若森 孝彰、森 井 康幸、宇都宮 真輝		
配当学科・研究科	2015～2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 社福 1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	火曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと 論理的な思考		DP4. コミュニケー ション・表現力	
DP5. グローバルな視 野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	心理学とはどんな学問かを知ることがテーマである。心理学は心の働きについて科学的に研究していく学問である。学生は、人が生活している環境からいかに情報を取り入れ、蓄積し、利用するのか、あるいは、いかに人間関係のなかで適応的に生きているのかなどについての学びを通して、心理学のおもしろさに触れることができる。						
授業概要	心理学は知覚、認知、発達、社会、パーソナリティなどさまざまな領域において様々な研究が行われている。本講義では、いくつかの領域における研究対象、方法、得られた知見等の解説をオムニバス形式で行う。						
アクティブラーニングの 内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	小テスト(50%)と定期テスト(50%)の成績により評価する。 ただし、受講態度の悪い学生（私語、飲食、内職等・・・）については、この限りではない。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィード バック方法	小テストについては、授業中にフィードバックするので、定期試験に向けて、見直すこと。						
履修条件・注意事項	テキストは使用しないので、集中して講義に参加すること。 授業担当者ごとに、2回に1回くらいの割合で小テストを行うので、特に復習には力を入れること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とそ の時間	基本的には、講義内で配布された資料をもとに復習すること。（2時間） テキストは使用しないが、一般的な心理学の本で該当箇所を対照させながら学ぶことが重要である（2時間）。体験的に学びを深めたい学生には、心理学実験への参加・協力をお願いする。						
オフィスアワー	森井：月4 津川：月4 藤原：月2 橋本：月5 宇都宮：火4 土居：月2 村上：木3 各教員研究室						
授業計画						担当者	
第1回	(1) オリエンテーション					全員	
第2回	(2) 外界を探るこころの働き					橋本	
第3回	(3) 感覚と知覚					橋本	
第4回	(4) 記憶のふしぎ					森井	
第5回	(5) 本能と学習					森井	
第6回	(6) 性格とは					土居	
第7回	(7) 心理検査について					土居	
第8回	(8) 乳幼児期～青年期の発達					宇都宮	
第9回	(9) 青年期の人間関係と心理					宇都宮	
第10回	(10) 対人認知					村上	

第11回	(11) 態度変容	村上
第12回	(12) ストレス	藤原
第13回	(13) ストレスと考え方	藤原
第14回	(14) カウンセリング	津川
第15回	(15) カウンセリングの実際	津川
第16回	(16) 定期試験(筆記)	全員

教科書

教・書籍名1	教科書は使用しない。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	心理学 (New Liberal Arts Selection)	参・出版社名1	有斐閣
参・著者名1	無藤・遠藤・玉瀬・森	参・ISBN1	978-4641053694
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	多文化理解 社福			担当者	末吉 秀二		
配当学科・研究科	2015～2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 社福1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	集中講義
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	16. 平和と公正をすべての人に / 17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	本講義は「世界の文化の多様性を理解する」をテーマに、私たち日本人にはあまり馴染みのないアラブ・イスラーム社会をとりあげる。具体的には、①イスラームの理解に不可欠なアラビア語の基礎、②西アジア史、③イスラーム文化、④近・現代のアラブ社会について理解を深める。その結果、世界の文化の多様性について興味をもてるようになる。						
授業概要	世界の多文化を理解するためには、まず文化相対主義（Cultural relativism）の立場、すなわち異なる文化の間には優劣はなく、それぞれの文化の価値を認めようとする視点が重要である。本講義は、世界の関心が高く、また世界の安定にとってきわめて重要な位置にある中東地域を例に、古代オリエントから現代までの中東の歴史、アラビア語の基礎、イスラームの意味するところから、アラブ・イスラーム文化を理解するとともに、世界の文化の多様性を理解するための端緒とする。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	到達目標を計るため、試験（60％）、授業態度/積極性（20％）、課題レポート（20％）により総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題レポートの返却時に講評する。						
履修条件・注意事項							
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習として、日ごろからアラブ社会の情勢に関心をもつこと、復習として、分からないことは授業で質問し、分からないことをそのままにしないこと。						
オフィスアワー	月曜日・金曜日（3限、5限）						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					末吉秀二	
第2回	古代オリエント					末吉秀二	
第3回	アラブ・イスラーム世界の形成					末吉秀二	
第4回	オスマン帝国とアラブ					末吉秀二	
第5回	近・現代のアラブ社会					末吉秀二	
第6回	アラビア語の基礎（文字と発音）					末吉秀二	
第7回	アラビア語の基礎（文法）					末吉秀二	
第8回	預言者ムハンマド					末吉秀二	
第9回	コーラン					末吉秀二	
第10回	イスラーム法（シャリーア）					末吉秀二	
第11回	イスラーム文化（衣・食・住）					末吉秀二	
第12回	イスラーム文化（スーク/メディナ）					末吉秀二	
第13回	パレスチナ問題					末吉秀二	
第14回	事例研究（ヨルダン）					末吉秀二	
第15回	多文化理解（論文輪読）					末吉秀二	
第16回	単位認定試験					末吉秀二	
教科書							
教・書籍名1						教・出版社名1	

教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	イスラーム文化	参・出版社名1	岩波文庫
参・著者名1	井筒俊彦	参・ISBN1	4-00-331851-X
参・書籍名2	イスラーム世界の論じ方	参・出版社名2	中央公論社
参・著者名2	池内 恵	参・ISBN2	978-412-003990-4

授業科目名	日本国憲法 社福			担当者	入江 祥子		
配当学科・研究科	2015～2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 社福1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	△
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	<p>1. 貧困をなくそう / 2. 飢餓をゼロに / 3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 5. ジェンダー平等を実現しよう / 8. 働きがいも経済成長も / 10. 人や国の不平等をなくそう / 16. 平和と公正をすべての人に</p> 						
到達目標	<p><到達目標> 主権者として必要とされる日本国憲法の知識を身につけ、さらに憲法改正につき論理的に自己の考えを述べることができることを目指す。 「人権」について正しく理解し、快適な社会づくりに貢献できることを目指す。</p> <p><テーマ> 難解とされる日本国憲法における基本的論点を、判例やニュースを織り交ぜながらできるだけ平易に解説すると同時に、日本国憲法の将来を自分で考えるために必要と思われる情報を提供する。「人権」について理解を深める。</p>						
授業概要	<p>法の初学者のために、広く「法」の解説から始める。さらに「憲法」の定義やその特質について学んだうえで、「日本国憲法」についてその成立背景から基本原理および統治機構について、判例・学説を交え講義を行う。特に「人権」については、その性質および享有主体性等個々の論点にまで立ち入った解説を行い、正しい人権意識を身につけることを意識する。また、統治機構については、政治的時事問題を交え、日本の政治の仕組みおよび問題点について説明し、主権者として必要な正しい知識を取得できるよう講義を行う。</p> <p>* 実務経験のある教員による授業 本授業は法律に関するスペシャリストである司法書士の方による講義です。</p>						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	受講態度及び取組姿勢30%、各講義の最後に実施する理解度を問う小テストの評価30%、定期試験40%の配分で基本的評価を行う。授業態度については、私語、遅刻、途中退室等についても考慮する。小テストが優秀であれば加点する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	国内外で起きている様々な社会問題を自らとらえ、それらの問題について自発的に考え、解決策を模索することを習慣づける。						
履修条件・注意事項	履修条件は特にありませんが、日本国内外の時事問題を情報収集するよう心がけてください。 注意事項としては、他の学生の受講に迷惑になること（特に私語、授業途中の許可のない入退室等）は厳に慎んでください。講師の指示に従わない場合には受講を認めないこともありますので、ご注意ください。 出席状況の把握は各自で行ってください。 原則として、配布物の再配布は行いません。						
実務経験のある教員	該当する	内容	司法書士				
事前学習・事後学習とその時間	予習としては、授業計画のテーマに沿って、インターネットや書籍を利用した下調べを行っていただきたい。本講義は復習が重要です。授業で学んだ知識を定着させ、それを踏まえて自己の考えを構築できるよう発展させること。						
オフィスアワー	授業時間前後に講義室又は非常勤講師室にて質問等を受けます。						
	授業計画						担当者

第1回	なぜ「憲法」を学ぶ必要があるか	入江 祥子
第2回	法とは何か、法はなぜ必要か、法と道徳の違い	入江 祥子
第3回	法源とは何か、法の種類	入江 祥子
第4回	憲法とは何か、立憲主義	入江 祥子
第5回	憲法の成立、大日本帝国憲法と日本国憲法	入江 祥子
第6回	国民主権の意味、その役割	入江 祥子
第7回	戦争の放棄、日本国憲法第9条	入江 祥子
第8回	人権とは何か、その役割	入江 祥子
第9回	人権の効果	入江 祥子
第10回	人権の限界、公共の福祉	入江 祥子
第11回	統治制度について、権力分立	入江 祥子
第12回	立法権、国会の役割	入江 祥子
第13回	行政権、内閣の役割	入江 祥子
第14回	司法権、裁判所の役割	入江 祥子
第15回	地方自治について	入江 祥子
第16回	筆記試験	入江 祥子

教科書

教・書籍名1	各回ごとに配布物を配り、それによって授業を進める。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	六法	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	日本国憲法 社福			担当者	入江 祥子		
配当学科・研究科	2015～2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 社福1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	木曜5限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	△
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	<p>1. 貧困をなくそう / 2. 飢餓をゼロに / 3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 5. ジェンダー平等を実現しよう / 8. 働きがいも経済成長も / 10. 人や国の不平等をなくそう / 16. 平和と公正をすべての人に</p> 						
到達目標	<p><到達目標> 主権者として必要とされる日本国憲法の知識を身につけ、さらに憲法改正につき論理的に自己の考えを述べることができることを目指す。 「人権」について正しく理解し、快適な社会づくりに貢献できることを目指す。</p> <p><テーマ> 難解とされる日本国憲法における基本的論点を、判例やニュースを織り交ぜながらできるだけ平易に解説すると同時に、日本国憲法の将来を自分で考えるために必要と思われる情報を提供する。「人権」について理解を深める。</p>						
授業概要	<p>法の初学者のために、広く「法」の解説から始める。さらに「憲法」の定義やその特質について学んだうえで、「日本国憲法」についてその成立背景から基本原理および統治機構について、判例・学説を交え講義を行う。特に「人権」については、その性質および享有主体性等個々の論点にまで立ち入った解説を行い、正しい人権意識を身につけることを意識する。また、統治機構については、政治的時事問題を交え、日本の政治の仕組みおよび問題点について説明し、主権者として必要な正しい知識を取得できるよう講義を行う。</p> <p>* 実務経験のある教員による授業 本授業は法律に関するスペシャリストである司法書士の方による講義です。</p>						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	受講態度及び取組姿勢30%、各講義の最後に実施する理解度を問う小テストの評価30%、定期試験40%の配分で基本的評価を行う。授業態度については、私語、遅刻、途中退室等についても考慮する。小テストが優秀であれば加点する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	国内外で起きている様々な社会問題を自らとらえ、それらの問題について自発的に考え、解決策を模索することを習慣づける。						
履修条件・注意事項	履修条件は特にありませんが、日本国内外の時事問題を情報収集するよう心がけてください。 注意事項としては、他の学生の受講に迷惑になること（特に私語、授業途中の許可のない入退室等）は厳に慎んでください。講師の指示に従わない場合には受講を認めないこともありますので、ご注意ください。 出席状況の把握は各自で行ってください。 原則として、配布物の再配布は行いません。						
実務経験のある教員	該当する	内容	司法書士				
事前学習・事後学習とその時間	予習としては、授業計画のテーマに沿って、インターネットや書籍を利用した下調べを行っていただきたい。本講義は復習が重要です。授業で学んだ知識を定着させ、それを踏まえて自己の考えを構築できるよう発展させること。						
オフィスアワー	授業時間前後に講義室又は非常勤講師室にて質問等を受けます。						
	授業計画					担当者	

第1回	なぜ「憲法」を学ぶ必要があるか	入江 祥子
第2回	法とは何か、法はなぜ必要か、法と道徳の違い	入江 祥子
第3回	法源とは何か、法の種類	入江 祥子
第4回	憲法とは何か、立憲主義	入江 祥子
第5回	憲法の成立、大日本帝国憲法と日本国憲法	入江 祥子
第6回	国民主権の意味、その役割	入江 祥子
第7回	戦争の放棄、日本国憲法第9条	入江 祥子
第8回	人権とは何か、その役割	入江 祥子
第9回	人権の効果	入江 祥子
第10回	人権の限界、公共の福祉	入江 祥子
第11回	統治制度について、権力分立	入江 祥子
第12回	立法権、国会の役割	入江 祥子
第13回	行政権、内閣の役割	入江 祥子
第14回	司法権、裁判所の役割	入江 祥子
第15回	地方自治について	入江 祥子
第16回	筆記試験	入江 祥子

教科書

教・書籍名1	各回ごとに配布物を配り、それによって授業を進める。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	六法	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	民法 社福			担当者	生駒 正文		
配当学科・研究科	2015～2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 社福1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	火曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	<p>学生は日常生活の各場面で想定される法律の動きを知り、何がただしいのかという価値判断が求められる局面において、自ら考えて選ぶりリーガル・マインドを獲得できる。</p> <p>具体的には法の意義と、社会における法の役割を理解、実際の事件の中で、法がいかに問題解決のために機能しているか関心を持つこと、課題を法的な観点から検討できること、自分の考えを整理して、相手に論理的に説明する能力を身に着けることが個別目標です。</p> <p>日常生活の各場面で想定される法律の動きを知り、何がただしいのかという価値判断が求められる局面において、自ら考えて選ぶりリーガル・マインドを獲得することを到達目標とします。</p>						
授業概要	<p>我々の日常生活は、直接的・間接的に法律と関係しています。例えば、物の購入、家・金銭の貸し借り、結婚、親子関係、相続等、法律と無関係ではありません。我々の日常生活を規律する民法の基礎の基礎くらい知っておいた方が無難でしょう。</p> <p>本講義では、日常生活の場面で想定される事態について、どのように民法がかかわるか考えます。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション						
評価方法と割合	試験70% 授業態度・意欲・小テスト30%の評価						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題、小テストは、後日添削し返却します。理解が不足の場合、再提出。						
履修条件・注意事項	教科書持参、ノートをとること、考えることを原則に授業にのぞむこと						
実務経験のある教員	該当する	内容	大阪簡易裁判所の民事調停委員として各案件の処理を行う（20年）				
事前学習・事後学習とその時間	授業計画ごとに教科書を復習・予習しておくこと（2時間）						
オフィスアワー	12:30から13:20 14号館6階（生駒研究室）						
授業計画						担当者	
第1回	(1) 民法学の基礎知識（総則） ①民法とは何か、権利義務関係の基本となる能力					生駒正文	
第2回	(2) 民法学の基礎知識（総則） ②制限行為能力者制度					生駒正文	
第3回	(3) 民法学の基礎知識（総則） ③法人とは、物とは					生駒正文	
第4回	(4) 民法学の基礎知識（総則） ④意思表示					生駒正文	
第5回	(5) 民法学の基礎知識（総則） ⑤代理、時効					生駒正文	
第6回	(6) 民法学の基礎知識（財産法） ⑥物権と債権、物権の種類、物権法定主義					生駒正文	
第7回	(7) 民法学の基礎知識 ⑦物権の効力と物権変動（動産・不動産）					生駒正文	
第8回	(8) 民法学の基礎知識（財産法） ⑧即時取得、担保とは何か					生駒正文	
第9回	(9) 民法学の基礎知識（財産法） ⑨一般的な不法行為					生駒正文	
第10回	(10) 民法学の基礎知識（財産法） ⑩特殊的な不法行為 賃貸借					生駒正文	
第11回	(11) (3) 家族法の基礎知識 ⑪親族、婚姻、夫婦関係、離婚					生駒正文	
第12回	(12) 家族法の基礎知識 ⑫親子関係、親権、相続					生駒正文	
第13回	(13) 家族法の基礎知識 ⑬遺言					生駒正文	
第14回	(14) 家族法の基礎知識 ⑭遺留分					生駒正文	
第15回	(15) その他 ⑮割賦販売、訪問販売					生駒正文	

第16回	(16) 定期試験	生駒正文
教科書		
教・書籍名1	ガイドブック法学	教・出版社名1 嵯峨野書院
教・著者名1	生駒正文・高田富男編著	教・ISBN1 978-4-7823-0570-6
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1		参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	経済学 社福			担当者	張 秉煥		
配当学科・研究科	2015～2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 社福1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	水曜1限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	1. 貧困をなくそう / 2. 飢餓をゼロに / 3. すべての人に健康と福祉を / 5. ジェンダー平等を実現しよう / 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう / 10. 人や国の不平等をなくそう 						
到達目標	重要な経済問題について科学的にそして論理的に理解するための基本的スキルを修得することができる。						
授業概要	すべての社会が直面する根本的な経済問題は希少性である。経済学は、社会がその希少な資源をいかに管理するのかを研究する学問である。資源の配分は、膨大な数の家計と企業の行動を総合した結果として決定される。講座の前半は、個別の家計や企業が様々な決定をどのように行うか、それらが市場でどのように相互作用しあうのかを分析する。後半では、経済全体に影響するような様々な要因や傾向を考察する。なお、所得分配や所得格差問題、所得機会の変容とそのインプリケーションについて検討する。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	「定期筆記試験（70%）＋途中の形成的評価（30%）」をもとに合計100点満点で採点し、60点以上を合格とする。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	途中の形成的評価のために実施する「課題や試験」へのフィードバックは、授業中の総括的単位で行うことによって、個別学生に学習方法への含意や定期筆記試験への対策に資するものとする						
履修条件・注意事項							
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	本講座の独自教材（ワークブック兼用）に基づき、自主的な事前学習を行って授業を受けること。						
オフィスアワー	授業終了後、教室において実施する。						
授業計画						担当者	
第1回	講座の概要や評価方法、教材の構成、主な内容と使い方など。科学的方法論としての経済モデル					張秉煥	
第2回	経済学の主要原理（1）トレードオフ、機会費用、限界分析、インセンティブ等					張秉煥	
第3回	経済学の主要原理（2）市場経済、市場の失敗、GDP、インフレなど（現実の事例を含む）					張秉煥	
第4回	市場と競争（市場構造）、需要・供給の仕組み、両面市場					張秉煥	
第5回	市場構造と社会的厚生、完全競争市場、現実の経済問題への応用（インセンティブ）					張秉煥	
第6回	独占市場の特性と参入障壁の源泉、現実の経済問題への応用、小テスト1					張秉煥	
第7回	独占的市場と寡占市場の特性、囚人のジレンマモデルと現実の経済問題への応用					張秉煥	
第8回	現実における様々な価格類型、価格弾力性と価格差別モデル、現実の経済問題への応用					張秉煥	
第9回	価格規制の基礎モデル、最低賃金制度による労働市場への影響分析、外部効果の諸例					張秉煥	
第10回	公共財の諸例、フリーライダー問題、共有地の悲劇モデルと現実への応用、小テスト2					張秉煥	
第11回	情報の非対称性問題、モラル・ハザード、逆選択、現実の経済問題への応用					張秉煥	
第12回	経済循環図、国民所得の測定と国際比較、現実の経済問題への応用					張秉煥	
第13回	経済成長と公共政策、72の法則とその応用、景気変動					張秉煥	
第14回	所得分布と所得格差、所得機会の変容（定量的分析を踏まえて）、小テスト3					張秉煥	
第15回	経済政策の類型と具体的手法、経済安定化政策の逆効果（ジレンマ）					張秉煥	
第16回	定期筆記試験					張秉煥	
教科書							
教・書籍名1	独自教材（ワークブック兼用）					教・出版社名1	
教・著者名1						教・ISBN1	
教・書籍名2						教・出版社名2	

教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	マンキュー入門経済学	参・出版社名1	東洋経済新報社
参・著者名1	N・グレゴリー・マンキュー	参・ISBN1	978-4492315217
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	経済学 社福			担当者	張 秉煥		
配当学科・研究科	2015～2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 社福1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	水曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	1. 貧困をなくそう / 2. 飢餓をゼロに / 3. すべての人に健康と福祉を / 5. ジェンダー平等を実現しよう / 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう / 10. 人や国の不平等をなくそう 						
到達目標	重要な経済問題について科学的にそして論理的に理解するための基本的スキルを修得することができる。						
授業概要	すべての社会が直面する根本的な経済問題は希少性である。経済学は、社会がその希少な資源をいかに管理するのかを研究する学問である。資源の配分は、膨大な数の家計と企業の行動を総合した結果として決定される。講座の前半は、個別の家計や企業が様々な決定をどのように行うか、それらが市場でどのように相互作用しあうのかを分析する。後半では、経済全体に影響するような様々な要因や傾向を考察する。なお、所得分配や所得格差問題、所得機会の変容とそのインプリケーションについて検討する。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	「定期筆記試験（70%）＋途中の形成的評価（30%）」をもとに合計100点満点で採点し、60点以上を合格とする。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	途中の形成的評価のために実施する「課題や試験」へのフィードバックは、授業中の総括的単位で行うことによって、個別学生に学習方法への含意や定期筆記試験への対策に資するものとする						
履修条件・注意事項							
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	本講座の独自教材（ワークブック兼用）に基づき、自主的な事前学習を行って授業を受けること。						
オフィスアワー	授業終了後、教室において実施する。						
授業計画						担当者	
第1回	講座の概要や評価方法、教材の構成、主な内容と使い方など。科学的方法論としての経済モデル					張秉煥	
第2回	経済学の主要原理（1）トレードオフ、機会費用、限界分析、インセンティブ等					張秉煥	
第3回	経済学の主要原理（2）市場経済、市場の失敗、GDP、インフレなど（現実の事例を含む）					張秉煥	
第4回	市場と競争（市場構造）、需要・供給の仕組み、両面市場					張秉煥	
第5回	市場構造と社会的厚生、完全競争市場、現実の経済問題への応用（インセンティブ）					張秉煥	
第6回	独占市場の特性と参入障壁の源泉、現実の経済問題への応用、小テスト1					張秉煥	
第7回	独占的市場と寡占市場の特性、囚人のジレンマモデルと現実の経済問題への応用					張秉煥	
第8回	現実における様々な価格類型、価格弾力性と価格差別モデル、現実の経済問題への応用					張秉煥	
第9回	価格規制の基礎モデル、最低賃金制度による労働市場への影響分析、外部効果の諸例					張秉煥	
第10回	公共財の諸例、フリーライダー問題、共有地の悲劇モデルと現実への応用、小テスト2					張秉煥	
第11回	情報の非対称性問題、モラル・ハザード、逆選択、現実の経済問題への応用					張秉煥	
第12回	経済循環図、国民所得の測定と国際比較、現実の経済問題への応用					張秉煥	
第13回	経済成長と公共政策、72の法則とその応用、景気変動					張秉煥	
第14回	所得分布と所得格差、所得機会の変容（定量的分析を踏まえて）、小テスト3					張秉煥	
第15回	経済政策の類型と具体的手法、経済安定化政策の逆効果（ジレンマ）					張秉煥	
第16回	定期筆記試験					張秉煥	
教科書							
教・書籍名1	独自教材（ワークブック兼用）					教・出版社名1	
教・著者名1						教・ISBN1	
教・書籍名2						教・出版社名2	

教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	マンキュー入門経済学	参・出版社名1	東洋経済新報社
参・著者名1	N・グレゴリー・マンキュー	参・ISBN1	978-4492315217
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	環境科学 社福			担当者	秋山 純一		
配当学科・研究科	2015～2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 社福1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	水曜4限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	△
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	<p>1. 貧困をなくそう / 2. 飢餓をゼロに / 3. すべての人に健康と福祉を / 6. 安全な水とトイレを世界中に / 7. エネルギーをみんなに・そしてクリーンに / 11. 住み続けられるまちづくりを / 12. つくる責任・つかう責任 / 13. 気候変動に具体的な対策を / 14. 海の豊かさを守ろう / 15. 陸の豊かさを守ろう</p> 						
到達目標	<p>学生は環境問題を理解するための基礎的知識である「生態系」、「生物多様性」、「物質循環」及び「食物連鎖」等の知識を習得することができる。学生はその基礎的知識をもとに、現在人類が直面している環境問題である「オゾン層の破壊」、「環境ホルモン」、「地球温暖化」およびその他の環境問題全般の現状についての知識を習得することができる。また、学生は現在の環境問題および将来に起こると予想される様々な環境問題について自身で考え、意見を発信し、行動できることを到達目標とする。</p>						
授業概要	<p>ヒトは有形無形の環境の中で生活しており、その生命環境の持続的保全が健康保持、人類存続には不可欠である。生活の利便性や効率、経済性を追求するあまり、近年の交通手段の急激な進歩や特に情報革命を中心とする社会構造の急速な変化が先進国だけでなく開発途上国にも広く及んでいる。現在、我々人類はこの急激な変化への適応に追われ、本来、最も尊いはずの生命保持のための環境の維持や保全が後手となり、現在、地球上では近未来を危ぶむ種々の重大な問題（環境汚染、地球温暖化、オゾン層の破壊、紫外線量の増加、環境ホルモン等）が生じている。本講義では前半は生命と環境についての基本的な知識（環境、生態系、生物多様性、物質循環及び食物連鎖等）を習得し、その知識を基に我々の目前で現在起こっている種々のレベルでの環境問題の現状を把握し、また将来生じると予想される問題を予見し、これらの問題に対して先見の問題意識を持ちどの様に対処すべきかを学習する。本講義の後半では各環境問題の問題提示としてこれらの環境問題に関連するの現状と未来を予測したDVD映像などの鑑賞も加えて授業を行う。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション						
評価方法と割合	マークシート形式主体の筆記試験により約90%を評価し、残り約10%の評価として、授業中の態度や質疑応答に関する評価点を加算する。試験やレポート課題後に授業やオフィスアワーを利用してそのフィードバックを行う。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	学授業中の課題提示毎に問いかけを行い、質疑。応答での知識確認のためのフィードバックを実施する。また、試験実施後の質問を受け付け、未理解項目のフィードバックを実施する。						
履修条件・注意事項	学習するテーマの毎にプリント(B4サイズ)を配布するので、第1回目授業からファイルを用意すること。授業中はプリントの空欄への記入及びノートメモを取ることを。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は国家資格の「公害防止主任管理者」取得者である教員が環境管理の実務経験を活かし、環境教育において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	授業毎の事前に配布するプリントによる予習(1時間程度)を行うことで授業に臨むこと、また授業後に空欄を記入したプリント内容の復習(1時間程度)を行って学習内容の理解を深めること。						
オフィスアワー	授業の前後の空き時間や昼休み時間で可能な限り対応を実施する。						
授業計画						担当者	
第1回	環境と人間のかかわりあい					秋山純一	
第2回	環境における人類危機要因					秋山純一	
第3回	生態系と人間					秋山純一	
第4回	食物連鎖					秋山純一	
第5回	物質循環					秋山純一	
第6回	紫外線(作用と分類)					秋山純一	

第7回	紫外線と皮膚（臨床）	秋山純一
第8回	紫外線と皮膚（防御）	秋山純一
第9回	オゾン層の破壊（原因）	秋山純一
第10回	オゾン層の破壊（対策）	秋山純一
第11回	環境ホルモン（作用）	秋山純一
第12回	環境ホルモン（分類）	秋山純一
第13回	環境ホルモン（影響）	秋山純一
第14回	地球温暖化（原因）	秋山純一
第15回	地球温暖化（対策）	秋山純一
第16回	単位認定試験	秋山純一

教科書		
-----	--	--

教・書籍名1	使用しない（テーマ毎にプリントを配布する）	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書		
-----	--	--

参・書籍名1	環境科学入門	参・出版社名1	化学同人
参・著者名1	川合 真一郎 他	参・ISBN1	9.78E+12
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	化学 社福			担当者	秋山 純一		
配当学科・研究科	2015～2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 社福1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	水曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	△
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	7. エネルギーをみんなに・そしてクリーンに / 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう 						
到達目標	本講義で学生は無機化学や有機化学全般の基礎的な知識の習得に重点をおき学習することができる。また、後半の講義で学生は生命活動に関連の深い天然物質やプラスチックの分類、生活に必要な薬品や化粧品等に関連する界面化学を学習することができる。学生は本講義を通じて将来の種々の職業や日常生活に役立つ化学的な知識を取得し、その知識を応用することができる。						
授業概要	今日の科学技術の進歩は目覚しく、現代の私達の豊かな暮らしは正にこの科学の進歩に支えられていると言っても過言ではない。化学は、物質の成り立ちや変遷を究明する学問で、物質を構成する原子や分子を対象とし、それらの性質、構造、反応性などを実証的に解き明かす。18世紀後半から学問として体系付けられ、幾多の素晴らしい知見や成果を蓄積しながら、現代化学へと発展してきた。今日では、複雑で有用な物質を簡単な物質（分子）から合成するなど、私達の身の回りには化学の力で作られた物質が溢れ、暮らしを豊かに、快適にしてくれている。一方、分子という考えの導入により、生命現象を化学的に解釈できるようになり、また生命現象を遺伝子のレベルで操作することもできるようになった。これらの知見を基に生命科学の分野では遺伝子治療なども行われるようになった。しかし他方では、地球環境問題や環境ホルモンなどの新たな種々の問題がみられるようになった。本講義では基礎的な化学の知識の確認・修得に重点をおき、また特に我々の生活用品や基礎医学に関連した分野も取り上げて授業を行う。 ※実務経験がある教員による授業 この科目は化粧品メーカーの研究開発の実務経験をもつ教員がその経験を活かし、将来の仕事や日常生活に実践的に役立つ授業を実施する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション / その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	問題概要を事前にプリントにて予告配布するマークシート形式主体の定期試験により約90%を評価し、残り約10%の評価として、授業中の態度や質疑応答に関する評価点を加算する。試験やレポート課題後に授業やオフィスアワーを利用してそのフィードバックを行う。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	学習課題の終了後および授業の終了時に都度の問いかけし、質問を受け付けてフィードバックを実施する。試験実施後の質問を受け付けてフィードバックを実施する。						
履修条件・注意事項	学習するテーマの毎にプリント(B4サイズ)を配布するので、第1回目授業からファイルを用意すること。授業中はプリントの空欄への記入及びメモを取ることを。						
実務経験のある教員	該当する	内容	担当教員の公的機関や民間企業での試験や研究開発部門での勤務経験を生かし、幅広い知識や技術を授業内容に取り入れる。				
事前学習・事後学習とその時間	授業毎の事前に配布するプリントによる予習(1時間程度)を行うことで授業に臨むこと、また授業後に空欄を記入したプリント内容の復習(1時間程度)を行って学習内容の理解を深めること。						
オフィスアワー	授業の前後の空き時間や昼休みを活用して実施。						
授業計画						担当者	
第1回	原子・分子の構造					秋山純一	
第2回	化学結合					秋山純一	
第3回	同位体と放射能					秋山純一	
第4回	周期律表					秋山純一	
第5回	化学反応、結合					秋山純一	
第6回	酸化と還元（反応物質）					秋山純一	
第7回	酸化と還元（燃料電池他）					秋山純一	

第 8 回	物質の分類 (金属、非金属)	秋山純一
第 9 回	水の化学 (特性、硬度、pH)	秋山純一
第 1 0 回	有機化合物の構造分類	秋山純一
第 1 1 回	有機化合物の置換基分類	秋山純一
第 1 2 回	有機合成の反応分類	秋山純一
第 1 3 回	高分子化合物 (天然)	秋山純一
第 1 4 回	高分子化合物 (合成)	秋山純一
第 1 5 回	界面の化学 (洗剤、乳化)	秋山純一
第 1 6 回	単位認定試験	秋山純一

教科書

教・書籍名 1	使用しない (テーマ毎にプリント配布する)	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	

参考書

参・書籍名 1	教養の現代化学	参・出版社名 1	三共出版
参・著者名 1	多賀 光彦 / 共著 他	参・ I S B N 1	9.78E+12
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	数学 社福			担当者	山本 敦之		
配当学科・研究科	2015～2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 社福1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	火曜5限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	◎	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力	△	DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	迅速かつ確かな数的理解力の育成をテーマとして、課題に含まれる諸要素と関係性を捉え、適宜情報収集しながら課題解決の方針を見つけ、結果を導き出す力を身につける。						
授業概要	数的推理・資料解釈・判断推理・空間把握に関する課題を数学的かつ論理的に理解する力を身につける。具体的には、方程式や確率等の数的推理、データやグラフ等の資料解釈、論証や対応関係等の判断推理、立体図形や展開図等の空間把握に関する比較的身近な問題について考え、自ら解法を見つけ出し答えを導き出す。必要に応じて、解法を見つけ出すために必要な情報を収集する。更には、助言を適宜得ながら学生同士が教えあい学びあい、課題に対する数的理解を深める。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	数的理解力を把握するための単位認定試験（80%）、授業への積極的な参加態度（20%）をもとに総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	内容に応じて適宜指示する。						
履修条件・注意事項	やむを得ず遅刻・欠席する場合は予め連絡すること。他の受講生らが迷惑に感じる言動は控えること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習と復習には各2時間を要する。時間をかけて問題に向き合い、多角的な視点や柔軟な思考を意識して予習・復習に取り組むこと。						
オフィスアワー	月曜5限						
授業計画						担当者	
第1回	数的推理：濃度					山本	
第2回	数的推理：速さ・距離・時間					山本	
第3回	数的推理：ものの値段と個数					山本	
第4回	数的推理：定価・原価・利益					山本	
第5回	数的推理：割合と値段					山本	
第6回	数的推理：仕事算					山本	
第7回	資料解釈：表の読み取り&資料の読み取り					山本	
第8回	数的推理：順列と組み合わせ					山本	
第9回	数的推理：確率のとりえ方					山本	
第10回	判断推理：集合					山本	
第11回	判断推理：推論					山本	
第12回	判断推理：ものの流れと比率&ブラックボックス					山本	
第13回	資料解釈：グラフの領域					山本	
第14回	判断推理：論証					山本	
第15回	空間把握：立体の展開図・断面					山本	
第16回	単位認定試験					山本	

教科書			
教・書籍名1	2024年度版 ドリル式 SPI問題集	教・出版社名1	永岡書店
教・著者名1	柳本新二	教・ISBN1	9784522460122
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	韓国地域社会			担当者	李 分一		
配当学科・研究科	2017～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2017～2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 社福1年／ 2017～2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2018～2019年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	SS-BU-2-305		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年/2年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	火曜4限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用		DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	1. 貧困をなくそう／8. 働きがいも経済成長も／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／16. 平和と公正をすべての人に／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	地域研究を学ぶ理由は、地域の安定（平和）と繁栄にある。分裂国家・韓国は、北朝鮮と並んで、日本の隣国である。そして日本は、隣国として朝鮮半島との平和的な共存・共生の関係を保つ必要がある。すなわち、様々なグローバルな課題と地域問題が交差する今日のグローバル社会では、特に日本と朝鮮半島との良好な関係を必要とするのである。この講義を受講すれば、韓国と周辺隣国に関する客観的・総合的な知識の習得とともに、国際地域問題に関する総括力・発表力が身に付けられる。						
授業概要	世界の地理上には、大小の様々な国家や地域が共存・共生している。それらは自然的、人文社会的な特徴を持ちながら、歴史的な経験を経て現在の国家・地域を形成している。韓国も例外ではない。地域の自然環境や社会環境における様々な地理的事情を有機的に結合して考察することにより、その地域の特色・性格を明らかにする。また、この講義では、戦後韓国社会における産業化や民主化過程を具体的な事例を取り上げて説明する。この科目を受講することにより、地理的な見方・認識の手法を学び取り、韓国などの異文化社会の理解や国際理解を深めることができる。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション						
評価方法と割合	定期試験（80％）、提出物（10％）、授業態度（10％）等によって評価する。提出物などは、授業でフィードバックを行うので、その提出物などの内容を明確に学習しなければならない。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業時間やオフィスアワーを利用してフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	(1) 授業後には、授業内容に関するミニレポートを提出しなければならない。 (2) 単位認定試験を行うので、必ず受けることが必要である。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	(1) 参加型授業であるために、受講生には事前課題を調べた上で、参加すべきである。授業は、この課題をめぐって行う。 (2) 受講生の予習（30時間）と復習（30時間）のために、トピック別の宿題とレポートを課す。						
オフィスアワー	毎週水曜日5時限目（9304研究室）						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					李 分一	
第2回	韓国という国					李 分一	

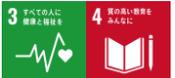
第3回	韓国の歴史（民族と国家）	李 分一
第4回	韓国民主主義の位相と行方	李 分一
第5回	韓国民主主義の制約	李 分一
第6回	解放前の要因	李 分一
第7回	解放後の要因	李 分一
第8回	韓国の権威主義体制	李 分一
第9回	民主化・人権擁護運動	李 分一
第10回	1980年代の韓国	李 分一
第11回	1980年代の政治体制	李 分一
第12回	1990年代の民主化運動	李 分一
第13回	1990年代の民主化運動	李 分一
第14回	韓国政治社会の新潮流	李 分一
第15回	韓国の民主主義と市民社会	李 分一
第16回	単位認定試験	李 分一

教科書

教・書籍名1	プリント使用	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	発達心理学			担当者	宇都宮 真輝		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2018～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2018～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 社福1年／2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2018年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	PS-PS-1-307		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	テーマは、様々な視点から人間の発達過程について理解することである。そのために、身体、脳、感情、認知、人間関係の発達など、様々な観点から人間の発達を分析し、理解するための知識を身に付けられるようになることを到達目標とする。						
授業概要	胎児期、乳幼児期、児童期、青年期、成人期の各時期における発達の様相や発達課題について様々な観点から学習する。また、各発達段階における臨床的問題についても学習し、心理的援助についての考察も深める。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション						
評価方法と割合	評価は、受講態度（10%）、小テスト・レポート（30%）、期末試験（60%）とし、総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	小テスト、レポートは授業時間内に答え合わせやフィードバックを行う予定。						
履修条件・注意事項	積極的かつ真摯な態度で授業に臨むこと。 事前に各回の内容について伝達するので、予習を行うこと。小テストなども行うので、自身の習熟度を確認し、復習を欠かさないこと。						
実務経験のある教員	該当する	内容	臨床心理士、公認心理師の資格を有しており、心理相談室、学生相談、スクールカウンセリングにおける実務経験あり。				
事前学習・事後学習とその時間	予習として次回の内容について教科書を読んでくること。授業で学習し、ノートにまとめた内容について復習してくる。次回の授業時に口頭で質問したり、小テスト等で確認します。予習・復習には、1-2時間程度を要する。						
オフィスアワー	研究室にて、火曜日4時限に実施。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					宇都宮	
第2回	ライフサイクルについて					宇都宮	
第3回	胎児期					宇都宮	
第4回	新生児期					宇都宮	
第5回	乳児期：愛着の形成					宇都宮	
第6回	乳児期：言葉の発達					宇都宮	
第7回	幼児期：表象の獲得					宇都宮	
第8回	幼児期：社会性の発達					宇都宮	
第9回	児童期：有能感と劣等感					宇都宮	
第10回	児童期：学校への適応・いじめ					宇都宮	

第11回	青年期前期	宇都宮
第12回	青年期後期	宇都宮
第13回	青年期の病理	宇都宮
第14回	成人期	宇都宮
第15回	まとめ	宇都宮
第16回	期末試験（筆記試験）	宇都宮

教科書		
-----	--	--

教・書籍名1	よくわかる発達心理学	教・出版社名1	ミネルヴァ書房
教・著者名1	無藤隆・岡本祐子・大坪治彦（編）	教・ISBN1	978-4-623-05379-7
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書		
-----	--	--

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	保育の心理学Ⅰ			担当者	森井 康幸		
配当学科・研究科	2017～2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2017～2018年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年／ 2017～2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2017～2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 社福1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2017～2018年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	PS-CE-2-213		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年 / 2年		開講期	2022年度春学期		曜日・時限	水曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 5. ジェンダー平等を実現しよう / 11. 住み続けられるまちづくりを / 16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	<p>発達とは人と人の関わりのなかで生じていることを中心に、乳幼児の保育や幼児教育を行っていくうえで必須となる子どもの心身発達の基礎となる心理学的知見を学ぶことをテーマとする。</p> <p>到達目標：子どもの生得的なすばらしい能力とその発達過程を理解し、子どもに対する興味・関心を高め、より多面的に理解できるようになる。</p>						
授業概要	保育実践における子どもの発達理解の意義について学ぶとともに、発達に関わる心理学の基礎を習得し、子どもへの理解を深める。また、子どもの発達に関わる他者との関わり、社会的相互作用等についても理解する。さらに、生涯発達の観点から発達のプロセスや初期経験の重要性について理解し、保育実践との関わりについて考察する。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	ほぼ隔週で行う小テストまたはミニ・レポートの得点（30％）と定期試験の得点（70％）に、受講態度の評価点（0～1）を乗じたもので評価する。したがって、テストで満点であっても、受講態度の評価点が0.5の場合は100点×0.5で50点となるので注意すること。小テストは採点后、返却するので、定期試験に向けて、しっかり見直しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	小テストの返却と、必要に応じて補足解説を行う。						
履修条件・注意事項	上述のように、ほぼ隔週で小テストを行なうので、最低限、教科書の該当箇所を熟読しておくこと。小テストは前回の授業内容の復習テスト、あるいは当日の授業内容の理解テストを中心に行なう予定である。保育士の資格取得には必須科目である。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	<p>予習としては、あらかじめテキストに目を通しておくこと。（2時間）</p> <p>復習は、配付資料とともに、再度テキストを読むこと。（2時間）</p> <p>返却された小テストも確認しておくこと。</p>						
オフィスアワー	月曜4限 教員研究室						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					森井	
第2回	発達を考える（第1章）					森井	
第3回	人との関わりの基盤					森井	

第4回	子ども同士の関わりの進展	森井
第5回	身体的機能と運動機能の発達－個人差と環境－	森井
第6回	運動機能の発達と心理的発達との関連	森井
第7回	ピアジェ理論とその再検討	森井
第8回	世界づくりの開始－認知発達の基盤	森井
第9回	世界づくりの展開－身の回りの世界についての理解の構成	森井
第10回	言語発達の基礎－人との関わりから育まれる言葉	森井
第11回	言語を使った世界の広がり	森井
第12回	乳幼児期の学びに関わる理論	森井
第13回	乳幼児期の学びの過程と特性	森井
第14回	乳幼児期の学びを支える保育	森井
第15回	まとめ	森井
第16回	定期試験	森井
教科書		
教・書籍名1	保育の心理学	教・出版社名1 北大路書房
教・著者名1	藤崎 真知代・無藤 隆	教・ISBN1 978-4-7628-3152-2
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	エピソードで学ぶ 乳幼児の発達心理学	参・出版社名1 新曜社
参・著者名1	岡本依子・菅野幸恵・塚田-城みちる	参・ISBN1 978-4-7885-0907-8
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	対人関係論			担当者	栗田 喜勝		
配当学科・研究科	2017～2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2017～2018年度 吉備国際大学 心理学部 子ども3年／ 2017～2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2017～2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 社福1年／ 2017～2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2017～2018年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	PS-CE-3-219		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年 / 3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	金曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 5. ジェンダー平等を実現しよう 						
到達目標	「社会における人と人との相互作用」と「社会的適応」をテーマとして、人々の具体的な日常生活場面における対人行動の特徴を理解することにより、よりよい人間関係のあり方について考察を深めることができるようになる。						
授業概要	心理学は一般的に「行動の科学」として認知されているが、その研究アプローチは多岐にわたる。中でも個人心理学は、環境との相互作用を行う個体（個人）に注目して知覚や感情、思考などについて科学的に究明してきたが、社会心理学は、個人と他者よの相互作用の観点から、社会の中の個人の行動を科学的に理解しようとする学問体系であるといえる。そこで本講では、個人、集団に影響を及ぼす種々の心理的要因について具体的に取り上げ考察する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	受講態度（質疑・意見表明等の有無）（40％）・期末試験（60％）で総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業中に提示する自主学修課題については、学修の進展に資するために、見極め評価結果をフィードバックするので参考にすること。						
履修条件・注意事項	主体的、積極的に参加すること。 授業の中で使用する各種の資料や心理テスト類をファイルにより提示するので受講の前にあらかじめよく目を通し（予習）、授業後は内容を確認し整理し（復習）、以後の学習に活用してほしい。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	1) 事前にファイル提示する資料に十分目を通して、毎回2時間以上の事前学修を行い授業に参加すること。 2) 毎回授業時には前回の学修内容を確認し、資料中の事項について質疑応答形式で進めるので、積極的な参加と事前の準備、授業後の振り返り(2時間以上の事後学修)が必要である。 3) 単位認定試験には、毎回の質疑応答内容を含めるので、予習復習の学修成果が大切である。						
オフィスアワー	個人研究室にて、基本的には木曜日4限、金曜日5限にPCオンライン・電話・メール等で実施するが、必要に応じて他の曜日時間帯にも随時対応する。						
授業計画						担当者	
第1回	心理学と社会心理学					栗田喜勝	
第2回	社会心理学の対象と研究方法について					栗田喜勝	
第3回	社会的認知について					栗田喜勝	
第4回	社会的相互作用について					栗田喜勝	

第5回	社会的欲求と適応行動について	栗田喜勝
第6回	人間関係とストレス	栗田喜勝
第7回	人間関係とフラストレーション	栗田喜勝
第8回	人間関係と認知	栗田喜勝
第9回	印象形成について	栗田喜勝
第10回	人間関係と感情	栗田喜勝
第11回	社会的態度と行動について	栗田喜勝
第12回	社会的態度(1)ステレオタイプ	栗田喜勝
第13回	社会的態度(2)偏見	栗田喜勝
第14回	態度変容について	栗田喜勝
第15回	学修のまとめ	栗田喜勝
第16回	期末試験	栗田喜勝

教科書

教・書籍名1	初回講義時および毎講義時に授業用資料をファイルにより呈示する。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	ワークショップ人間関係の心理学	参・出版社名1	ナカニシヤ出版
参・著者名1	藤本忠明他編著	参・ISBN1	4-88848-833-9
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	デジタルメディアと社会			担当者	大谷 卓史		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 社福1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2019年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	AN-AN-1-108		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	木曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	<p>4. 質の高い教育をみんなに／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／12. つくる責任・つかう責任／16. 平和と公正をすべての人に／17. パートナリシップで目標を達成しよう</p> 						
到達目標	<p>映像をもとに、現代の情報技術とコミュニケーションをめぐる倫理的問題について学ぶ。 現代は、情報技術が広く社会に浸透し、人びとのコミュニケーションと行為を媒介する情報社会である。また、現代の情報技術はデジタルコンピューティングをベースとしているので、現代の社会はデジタル技術とデジタルメディアを行為とコミュニケーションの基盤とする社会と見ることができる。 本講義は、デジタルメディアを媒介とする行為・コミュニケーションの性質を理解し、これらの行為・コミュニケーションにおける規範がどのようなものであるべきか構想するために必要な情報倫理学の基本的な考え方を学ぶ。 到達目標は、学生が次の3つのことができるようになることである。 1. デジタルメディアが媒介する行為やコミュニケーションの性質を理解できるようになる。 2. 倫理学の基本的な考え方とその枠組みを理解できるようになる。 3. デジタルメディアが媒介する行為やコミュニケーションにおいて、どのような法的・倫理的問題が生じる可能性があるか理解できるようになる。 ラーニングアウトカムは、「デジタルメディアと情報社会の理解」および「デジタル社会への参加態度」である。</p>						
授業概要	<p>現代において、デジタルメディアが媒介する私たちの行為とコミュニケーションにかかわる諸問題について、仮想的事例や現実の事例から学ぶ。これらの諸問題に対する基本的なアプローチには、1980年代以降に発展してきた情報倫理学の考え方や枠組みを活用する。 具体的事例を通して、現代の生活や社会のさまざまな局面における情報技術の働きを知るとともに、情報技術が基盤となる現代社会における情報とコミュニケーションの倫理的問題について考察する。授業では適宜映像作品やドキュメンタリー、講演・シンポジウムの映像記録などを活用して、現代の問題を考察できるようにする。 講義の最終回に全体のまとめをおこなう。 毎回簡単な課題提出を求める。内容は自分の意見であれば自由で採点には関係がないが、授業内容を理解したうえで意見であるかどうかなどを課題で確認する。課題に対しては、次回以降授業担当者から返答を行う。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義内における自主的な質問・発言やディスカッションへの積極的な参加態度、講義内容にかかわる教員からの質問への回答を30%の重みづけで評価する（受講態度）。また、課題等の提出物10%、試験の成績を60%として最終的に総合評価を行う。これらの3つの評価をバランスよく得ていることを単位認定（到達目標）の判断基準とする。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィード	授業課題に関しては、次回授業でコメントシート（シャトルカード）や、授業内での言及・コメントなどによって						

バック方法	(原則課題回答者名は匿名)、フィードバックする。		
履修条件・注意事項	<p>授業に積極的に取り組む姿勢が単位取得には必要です。</p> <p>講義形式の場合も、授業中に受講者に対して質問をします。また、授業の最後には、授業内容に関連した課題を出しますので、解答してください。解答に対しては、次回以降の授業でコメントや解説をします。</p> <p>授業計画の内容は、理解度の状況に応じて変更になることがあります。</p>		
実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	<p>各回の講義に対して、次のように予習・復習をおこなうこと。</p> <p>予習：レジュメ等の資料を配布するので、指示に従って予習すること。約2時間。</p> <p>復習：授業内容と資料を要約し、授業内で提示された課題について自分自身で考え回答する。約2時間。</p>		
オフィスアワー	<p>春学期：毎週木曜日4時限目、14617研究室（大谷研究室）</p> <p>秋学期：毎週水曜日3時限目、14617研究室（大谷研究室）</p>		

授業計画		担当者
第1回	イントロダクション	大谷
第2回	なぜ情報倫理が必要なのか	大谷
第3回	倫理とは何だろうか（1）倫理学と倫理・倫理学で使われる言葉	大谷
第4回	倫理とは何だろうか（2）倫理学の基本的な立場	大谷
第5回	グーグル革命（ビデオ教材）視聴と解説	大谷
第6回	サーチエンジンの倫理	大谷
第7回	ソーシャルネットワーキングサービス	大谷
第8回	フェイクニュースと情報の信頼	大谷
第9回	プライバシーの基礎	大谷
第10回	個人情報保護制度とその思想	大谷
第11回	監視と見守り	大谷
第12回	著作権の法・技術・ビジネス	大谷
第13回	AI・ロボットの倫理	大谷
第14回	バーチャルリアリティ	大谷
第15回	まとめ	大谷
第16回	筆記試験（オンライン試験機能利用も）	大谷

教科書			
教・書籍名1		教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	改訂新版 情報倫理入門	参・出版社名1	アイ・ケイコーポレーション
参・著者名1	土屋俊監修、大谷卓史編著、江口聡、喜多千草、永崎研宣、村上祐子、坪井雅史、川口嘉奈子、吉永敦征、川口由起子著	参・ISBN1	4874923240
参・書籍名2	AIの倫理学	参・出版社名2	丸善出版
参・著者名2	クーケルバーグ著、直江清隆訳者代表	参・ISBN2	978-4621305881

授業科目名	社会保障Ⅰ			担当者	松原 浩一郎		
配当学科・研究科	2015～2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 社福3年			ナンバリング	HS-SW-3-205		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	火曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	1. 貧困をなくそう / 2. 飢餓をゼロに / 3. すべての人に健康と福祉を / 16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	<p>①現代社会における社会保障制度の課題（少子高齢化と社会保障制度の関係を含む）について理解する。 ②社会保障制度の体系と概要について理解する。 ③年金保険制度と医療保険制度の具体的内容について理解する。 ④社会保障の概念や対象およびその理念等について、その発展過程も含めて理解する。</p> <p>以上4点を中心に学習を進める。そして、社会保障制度の構造と歴史の概要を述べるができるようになることを目標とする。くわえて、年金保険制度と医療保険制度の概要を説明できるようになることを目指す。特に相談援助実習において、医療機関と高齢者施設を希望する学生は、制度の概要を確実に把握して、実習において利用者や患者およびその関係者に説明できることを目標とする。</p>						
授業概要	<p>まず、最初に私たちの生活にどのように社会保障制度がかかわっているのかと学習する。 次に、社会保障の歴史を学ぶ。引き続いて、社会保障制度の構造を大まかに学び、その財源および費用について学修を深める。その後は、年金制度と医療保険制度の具体的内容を学習する。基本的には教員が講義を行うが、適時グループになりお互いに制度の説明をすることで、制度の学修を確実に身につけるようにする。また、年金保険と医療保険の学修終了時には、グループに分かれて様々なパターンの家族を想定して、加入保険についてグループ学修をすすめる。</p>						
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション						
評価方法と割合	<p>春学期末に実施する試験において評価する。なお、試験は基礎的な用語等の理解については穴埋め問題で問う(50点、各2点25問)。制度などの体系的な理解については論述問題において評価をする(30点、各10点3問)。さらにアクティブラーニングにおいて実施するプレゼンテーションの内容を20点満点で評価する。評価項目は、声の大きさや速度あるいは身振り手振りなどのノンバーバルコミュニケーションの活用を重視して15点満点、発表内容を5点とする。なお、実施に際しての詳細は、講義において事前に告知する。</p>						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	最終講義において試験解答を含めて、フィードバックをする。また、プレゼンテーションについては、実際に実施した直後、事前配布のチェック項目に基づいて評価内容を説明する。						
履修条件・注意事項	<p>社会保障を自身の生活と関連付けて理解するように心がけてほしい。 下記授業計画に基づいて講義をすすめるので、必ず事前にテキストの該当箇所を通読すること。約90分の予習を求め。また、講義後は再び該当箇所および直筆ノート等により90分の復習をすること。 テキストに基づいて講義をすすめてつづ、重要箇所は特に詳しく説明するので、黒板に説明した内容は言うまでもないが、口頭で説明したこともこまめにノートにメモすること。</p>						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	上記履修条件でも記載しているが、次回学修するテキストの範囲を事前に告知するので、その部分は必ず通読すること。また、講義の後は、その日に学んだ内容をテキストおよびノートを通して復習をして、疑問点などをまとめて、次回の講義時において質問をすること。また、福祉施設への実習やボランティア活動などに際して必要な最低限の社会保障制度は、自主学修をすすめること。						
オフィスアワー	月曜日終日6号館3階6307研究室において対応する。						
授業計画						担当者	
第1回	現代社会と社会保障について理解を深める。					松原浩一郎	
第2回	欧米における社会保障成立の歴史を概観して、理解を深める。					松原浩一郎	
第3回	わが国の社会保障の歴史を概観して、欧米の歴史と比較する。					松原浩一郎	
第4回	社会保障の構造を理解する。狭義と広義の社会保障と社会福祉を比較検討する。					松原浩一郎	

第5回	わが国の社会保障給付の概要を理解して、その課題を探り将来を展望する。	松原浩一郎
第6回	社会保障の財源について学び、その課題と将来展望を考える。	松原浩一郎
第7回	社会保障と経済について学ぶ。特に社会保障の経済効果をプラス面とマイナス面から理解する。	松原浩一郎
第8回	年金保険制度の歴史を学び、制度構造の理解を深める。	松原浩一郎
第9回	国民年金について理解を深める。特にその課題を探り、将来を展望する。	松原浩一郎
第10回	厚生年金制度の歴史をまなび、その構造を理解して、国民年金制度との比較を行う。	松原浩一郎
第11回	共済年金の歴史を学び、その構造を理解して、厚生年金に収斂された理由を考える。	松原浩一郎
第12回	医療保険制度の歴史を学び、その概要を把握する。	松原浩一郎
第13回	健康保険と国民健康保険と後期高齢者医療の歴史を学び比較検討する。	松原浩一郎
第14回	国民皆年金・皆保険の歴史と内容をまとめて、学生がプレゼンテーションを行う。	松原浩一郎
第15回	単位認定試験を実施する。	松原浩一郎
第16回	単位認定試験の解説を行い、学生自身が理解度を確認して、学修課題を明らかにする。	松原浩一郎

教科書

教・書籍名1	新・社会福祉士養成講座 1 2 社会保障第6版	教・出版社名1	中央法規出版
教・著者名1	社会福祉士養成講座編集委員会	教・ISBN1	978-4-8058-5811-0
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	見て覚える社会福祉士国試ナビ2022	参・出版社名1	中央法規出版
参・著者名1	いとう総研資格取得支援センター	参・ISBN1	978-4-8058-8317-4
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	保健医療サービス			担当者	石田 敦		
配当学科・研究科	2015～2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 社福3年			ナンバリング	HS-SW-3-210		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	水曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	2. 飢餓をゼロに / 3. すべての人に健康と福祉を / 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう 						
到達目標	【テーマ】 保健医療制度の概要、保健医療関連専門職の役割の概要、保健医療サービスと社会福祉士の 関わり等を理解する。 【到達目標】 医療保険・診療報酬制度、医療法、保健医療関連専門職の役割、MSW（医療ソーシャルワーカー）の役割と業務、多職種協働のあり方と留意点等を社会福祉士の立場から、中学卒業時の者が分かるように概説できるようになる。						
授業概要	社会福祉士に必要な保健医療サービス諸制度（主に医療保険・診療報酬制度、医療法等）と関連職種との役割と実際）を学ぶ。 これらを通じて、多職種連携のあり方や実際を学ぶ。また、社会福祉士の役割、連携方法なども学ぶ。						
アクティブラーニングの内容	反転授業 / ディベート						
評価方法と割合	この科目では、保健医療サービスに従事する者の役割やMSWの重要性を具体的・実践的に理解することを目的としていることから、その理解の状況を計ることを目的とし、以下の方法で評価する。 【定期試験】 50%（授業全般にわたっての理解を試験により確認する。） 【レポート】 20%（授業全般にわたっての理解を試験により確認する。） 【受講態度・その他】 30%（リアクションペーパーの提出や積極的参加態度等を重視する。）						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	提出されたレポートに対し、コメントを付し、返却する。						
履修条件・注意事項	テキストを必ず熟読（予習）した上で授業に臨むこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画に記載されている部分について事前に教科書を読み、理解できない点をノート等にまとめて授業を受けること。 復習として、毎回の授業について振り返りを行い、ノート等にまとめること。 予習および復習には、各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	6号館3階個人研究室において、毎週水曜日5時限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	保健医療サービスの構成要素					石田 敦	
第2回	保健医療福祉計画の策定の動向					石田 敦	
第3回	被保険者・保険者					石田 敦	
第4回	保健医療機関・審査支払機関の関係					石田 敦	
第5回	保健医療サービスを提供する施設とシステム					石田 敦	
第6回	診療報酬制度					石田 敦	
第7回	高額療養費制度等、高額介護費制度、その他医療費助成制度					石田 敦	
第8回	保健医療系の職種					石田 敦	
第9回	社会福祉専門職の役割					石田 敦	

第10回	医療ソーシャルワーカーの歴史的敵変遷・現状	石田 敦
第11回	医療ソーシャルワーカーの業務の内容・流れ・専門的視点及び役割	石田 敦
第12回	チーム医療のあり方	石田 敦
第13回	多職種との連携のあり方	石田 敦
第14回	各疾患別の医療ソーシャルワーク実践	石田 敦
第15回	保健医療制度の役割	石田 敦
第16回		

教科書

教・書籍名1	『新・社会福祉士養成講座（17）保健医療サービス』第4版	教・出版社名1	中央法規出版
教・著者名1	社会福祉士養成講座編集委員会	教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	イラストで見る社会福祉用語辞典 第2版	参・出版社名1	テコム
参・著者名1	福祉教育カレッジ	参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	福祉行財政と福祉計画			担当者	松原 浩一郎		
配当学科・研究科	2015～2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 福祉3年			ナンバリング	HS-SW-3-403		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	水曜1限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	1. 貧困をなくそう / 3. すべての人に健康と福祉を / 11. 住み続けられるまちづくりを 						
到達目標	わが国の社会福祉サービスの実施主体の変遷を概観する。そして「地域福祉」を旨とした近年の福祉制度改革の下で、住民組織・市民組織の活動と意義を理解する。更に、福祉多元化における公民それぞれの実施主体の特徴と運営を理解し、福祉現場での実践に役立てる。本講義では、新たに参入している様々な組織や団体の現状と課題、また福祉サービスを進めるうえで求められる運営管理の実際について学び、ソーシャルワーカーとしての知識と技能を修得する。						
授業概要	福祉施設の多くは社会福祉法人であり、公益法人としての使命は住民福祉の向上や充実であり、公共の福祉に寄与することが重要である。したがって、その組織と運営は、公平を旨として情報公開を必須とし、利用者は言うまでもなく、地域住民にとっても有益な存在とならなければならない。この講義は、このような使命を担う福祉施設が、どのような管理体制にあり、運営実態があるのかを理解することを目指す。テキストにより運営管理の目的と意義をまなび、くわえて施設の情報公開を利用して、具体的な内容を概観する。 また、福祉計画は、市町村を舞台とし、住民参加のもと支援を必要とする当事者・家族、サービス提供に関わる事業者、行政担当者、福祉に携わる専門職などが関わり作成される。計画策定における専門性、住民のニーズの把握、サービス量の算定、サービスの実施と評価を含む計画全体の運営や技法、また、計画の意義などについてもまなぶ。特に大学は所在する高梁市の各種福祉計画を読み込み、具体的な内容を理解する。						
アクティブラーニングの内容	ディベート／グループワーク						
評価方法と割合	単認定試験により評価する（試験80％） 講義終了時小テストを4回（各5点）不定期に実施する。内容は、その回の講義についてである。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	フィードバックは、最終講義において、単認定試験の解答をとおして実施する。質疑応答を行う。						
履修条件・注意事項	事前に学生自身の出身自治体の福祉計画を取得して、読み込むことが望ましい。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	資料とノートを中心とした復習により理解を深めること。考察を深め、新たな「発見」と「疑問」に気づくことが、本講義の最も重視しているポイントである。復習から生じた質問は大歓迎する。また、学生自身の出身地の福祉計画を取得して予習をすること。復習及び予習の時間は各90分以上は必要である。						
オフィスアワー	月曜日終日6号館3階6307研究室において対応する。						
授業計画						担当者	
第1回	社会福祉サービスにおける組織と経営とはなにかを理解する。					松原浩一郎	
第2回	福祉計画の概要とその意義を理解する。					松原浩一郎	
第3回	顧客中心のサービスマネジメントを理解する。					松原浩一郎	
第4回	福祉サービスに係る組織と団体の種別と機能を理解する					松原浩一郎	
第5回	福祉サービスの組織と経営における戦略とそれに基づく計画を理解する。					松原浩一郎	
第6回	福祉サービスの組織と経営におけるリーダーシップを考える。					松原浩一郎	
第7回	福祉サービスの管理運営の方法～サービスマネジメントを理解する。					松原浩一郎	
第8回	福祉サービスの管理運営の方法～サービス評価の方法とその実際を理解する。					松原浩一郎	
第9回	福祉サービスにおけるリスクマネジメントの方法と実際を理解する。					松原浩一郎	
第10回	福祉サービスの管理運営における人事管理と労務管理を理解する。					松原浩一郎	

第11回	福祉サービスの運営管理における人材育成と情報管理を理解する。	松原浩一郎
第12回	福祉サービスの管理運営における会計・財務管理について理解する。	松原浩一郎
第13回	福祉計画の種類と構造を理解する。	松原浩一郎
第14回	福祉計画の具体的内容を確認する。高梁市の各種計画を読み込む。	松原浩一郎
第15回	単位認定試験実施	松原浩一郎
第16回	試験解答をとおしてフィードバックを行う。	松原浩一郎

教科書

教・書籍名1	新・社会福祉士養成講座11「福祉サービスの組織と経営」第5版	教・出版社名1	中央法規出版
教・著者名1	社会福祉士養成講座編集委員会	教・ISBN1	978-4-8058-5431-0
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	介護福祉の基礎理論			担当者	松原 浩一郎		
配当学科・研究科	2015～2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 福祉2年			ナンバリング	HS-SW-2-501		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	金曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	△	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を / 11. 住み続けられるまちづくりを</p> 						
到達目標	<p>介護福祉の分野で必要な知識と技術及び倫理を理解することを目標にする。より具体的には以下の通りである。</p> <p>①多様なサービスの理解～介護保険制度の理解を深める</p> <p>②在宅介護や施設介護において必要な知識や技術や倫理について理解を深める。</p> <p>③介護に必要なコミュニケーション技法について理解を深めて、実際にロールプレイを行い、その技術を活用出来るようになる。特に共感や傾聴、受容的態度について身につける。また、チームで実践することの意義とその実態を理解する。</p> <p>④障害についての理解を深めて、障害者本人およびそれを取り巻く家族や地域のついで学ぶ。</p> <p>⑤施設見学を通して、施設の実態を理解して、利用者の実態を体験的に学ぶ。</p> <p>以上のような学修を通して、高齢者や障害者の実態を説明出来るようになり、くわえてそれらの当事者を取り巻く家族や地域及び施設の実態を述べることで、それらの課題を明確に説明出来るようになることを到達目標にする。</p>						
授業概要	<p>高齢者や障害者の理解については、主にテキストをもちいて、講義形式で学びを深める。コミュニケーション能力の習得については、講義形式で学んだ後、ロールプレイを通して、実施に実践して体験的に学びを深める。さらに、福祉施設の現状を理解するため、実際に見学に行き、職員から直接指導を受けると共に、そこで働く職員と利用者を観察して、その実態を理解する。なお、見学後はそこで学んだ内容をレポートにまとめることになる。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／フィールドワーク						
評価方法と割合	最終講義における筆記試験で80%の評価を行う。それ以外は、施設見学後のレポートで20%の評価をする。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	<p>施設見学まえに、それまでの学修の習熟度を口頭で確認して、必要に応じてフィードバックを行う。</p> <p>試験後、解答の説明をとおしてフィードバックを行う。くわえて、施設見学のレポートについても、最終講義においてフィードバックを行う。</p>						
履修条件・注意事項	<p>コミュニケーション技法についてロールプレイを行うので、積極的に参加して実践すること。</p> <p>施設見学を行うので、服装や髪型等、社会的マナーについて普段から留意すること。</p> <p>なお、施設見学前にフィードバックを行い、それまでの学修の習熟度を確認する。</p>						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	授業毎に、テキストに基づいて講義範囲を指示するので、必ず事前に精読しておくこと。くわえて、講義後もノートなどを通して復習をして、疑問に思う箇所等は次回の講義において質問をすること。予習と復習に各90分以上の時間を費やすこと。						
オフィスアワー	月曜日終日6号館3階6307研究室において対応する。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション、講義方法や評価方法を理解する。					松原浩一郎	
第2回	多様な福祉サービスについて理解を深める。(在宅3サービスを中心に)					松原浩一郎	
第3回	多様な在宅サービスにおいて施設サービスの位置づけを理解する。					松原浩一郎	
第4回	介護職の仕事内容や働く現場の理解を深める。(在宅サービスを中心に)					松原浩一郎	
第5回	施設サービスにおける介護職の仕事内容や現場の課題を理解する。					松原浩一郎	
第6回	介護におけるバーバルコミュニケーションを実践的に学ぶ。					松原浩一郎	
第7回	介護におけるノンバーバルコミュニケーションの活用を実践的に学ぶ。					松原浩一郎	

第8回	介護に関連する多職種の専門性について理解する。	松原浩一郎
第9回	介護におけるチームアプローチと協働のあり方を理解する。	松原浩一郎
第10回	障害者について、基礎的な理解を深める。	松原浩一郎
第11回	障害者を抱える家族の実際を理解し、その心理を学ぶ。	松原浩一郎
第12回	障害者を取りまく環境や制度を理解する。	松原浩一郎
第13回	介護職の就業に関する課題を理解して、将来への展望を語る（ディスカッション）。	松原浩一郎
第14回	介護施設を見学して、その実態を観察して理解を深める。	松原浩一郎
第15回	単位認定試験を実施する。	松原浩一郎
第16回	試験の解説をとおして、フィードバックを行う。	松原浩一郎

教科書

教・書籍名1	介護職員初任者研修課程テキスト1、2、3	教・出版社名1	日本医療企画
教・著者名1	小池将文ほか	教・ISBN1	なし
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	総合福祉論Ⅲ			担当者	松原 浩一郎		
配当学科・研究科	2015～2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 福祉3年			ナンバリング	HS-SW-3-603		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	火曜1限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	この演習は、社会福祉士実習に向けて、あるいは就職試験や就職活動に向けて、文章表現能力の向上やコミュニケーション能力の向上をはかることを目的とする。 とりわけ、実習において特に重要になる「観察」に焦点をあてて学修をすすめる。その中でも特に「質的観察」を重点的に学ぶ。つまり「観察力」の強化を「質的観察」の理解と実践により図ることを目的とする。具体的には、社会の中にあるあらゆる部分を「質的観察」で捉えることで、観察力の強化を図る。最後には「自分が体験した質的観察とその意義」をテーマに発表を行うこと。つまり自らの学びを他人伝えることができるようになることを到達目標とする。						
授業概要	質的観察とはなにかをテキストとDVDを通して学ぶ。そして学内外のさまざまな場面で「質的観察」の実際を体験をととして学ぶ。この時、重要になるのはコミュニケーションである。そこでコミュニケーション技法についても実践的に学び、スキルアップを目指す。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	最終的なまとめである「自分が体験した質的観察とその意義」のプレゼンテーションが80%の評価になる。そのうち、内容が50%でプレゼンテーションの技法（話し方など）を30%で評価する。さらに、「質的観察」の実践とそのまとめおよびディスカッションが20%の評価となる。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	「自分が体験した質的観察とその意義」のプレゼンテーションのフィードバックを最終講義において全員で行う。						
履修条件・注意事項	観察場面では、コミュニケーションが重要になるので、コミュニケーションスキルの向上を目指す学生の履修を希望する。 事前に予習をおこない、講義後はその内容を再び考察し直す復習を毎回繰り返して、「質的観察」の実際を理解して、同時にコミュニケーションスキルをアップすること。最終講義においては、習熟度を確認するため、フィードバックをおこなう。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	ALが中心になるので、「質的観察」を積極的に様々な場所で実践することが重要となる。講義中には、その結果のグループ報告や全体報告をするので、講義以外の予習（観察）復習（まとめ）などが非常に重要になる。なお、予習・復習には、最低でも90分以上の自己学修が必要である。						
オフィスアワー	月曜日終日6号館3階6307研究室において対応する。						
授業計画						担当者	
第1回	講義の実施方法や評価方法について説明をおこなう。					松原浩一郎	
第2回	質的観察と量的観察の違いを理解する。					松原浩一郎	
第3回	DVDキッチンストーリーを鑑賞する。					松原浩一郎	
第4回	DVDにおいて明らかになった、質的観察を理解する。					松原浩一郎	
第5回	DVDの質的観察と現実の観察を比較検討する。					松原浩一郎	
第6回	「観察とはなにか」をディスカッションして、自己覚知を深める。					松原浩一郎	
第7回	「質的観察の実施計画」を作成する。					松原浩一郎	
第8回	質的観察実施計画に基づいて、実践する。					松原浩一郎	
第9回	一回目の実施の反省と二回目の実施計画を策定する。					松原浩一郎	
第10回	実施計画に基づき、二回目の質的観察を実践する。					松原浩一郎	
第11回	2回の観察のまとめを行い、プレゼンテーションを計画する。					松原浩一郎	

第12回	グループ内でまとめた内容を、プレゼンテーションする。	松原浩一郎
第13回	各グループのプレゼンテーションを比較検討する。	松原浩一郎
第14回	比較検討をとおして、質的観察の利点と欠点を明らかにする。	松原浩一郎
第15回	質的観察の実際を各自まとめて、その発表をおこなう。	松原浩一郎
第16回	各自の発表内容の検討・評価をとおして、相互にフィードバックを行う。	松原浩一郎
教科書		
教・書籍名1	みる きく しらべる かく かんがえる	教・出版社名1 北樹出版
教・著者名1	伊藤哲司	教・ISBN1 978-4-7793-0198-8
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	21世紀を生きる社会心理学	参・出版社名1 北樹出版
参・著者名1	伊藤哲司	参・ISBN1 978-4-7793-0511-5
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	総合福祉論Ⅳ			担当者	石田 敦		
配当学科・研究科	2015～2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 福祉 4年			ナンバリング	HS-SW-4-604		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	水曜4限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと 論理的な思考		DP4. コミュニケー ション・表現力	
DP5. グローバルな視 野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	9. 産業と技術革新の基盤をつくろう / 10. 人や国の不平等をなくそう 						
到達目標	この演習は、社会福祉士実習に向けて、あるいは就職試験や就職活動に向けて、文章表現能力の向上やコミュニケーション能力の向上をはかることを目的とする。 とりわけ、実習において特に重要になる「観察」に焦点をあてて学修をすすめる。その中でも特に「質的観察」を重点的に学ぶ。つまり「観察力」の強化を「質的観察」の理解と実践により図ることを目的とする。具体的には、社会の中にあるあらゆる部分を「質的観察」で捉えることで、観察力の強化を図る。最後には「自分が体験した質的観察とその意義」をテーマに発表を行うこと。つまり自らの学びを他人伝えることができるようになることを到達目標とする。						
授業概要	質的観察とはなにかをテキストとDVDを通して学ぶ。そしてその学内外のさまざまな場面で「質的観察」の実際を学ぶ。この時、重要になるのはコミュニケーションであるが、それを实际的に体験を通して学ぶことになる。						
アクティブラーニングの 内容	反転授業／フィールドワーク						
評価方法と割合	最終的なまとめである「自分が体験した質的観察とその意義」のプレゼンテーションが80%の評価になる。そのうち、内容が50%でプレゼンテーションの技法（話し方など）を30%で評価する。さらに、「質的観察」の実践とそのまとめおよびディスカッションが20%の評価となる。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィード バック方法	提出されレポートにコメント付して返却する。また発表に対して、評価のコメントを行う。						
履修条件・注意事項	観察場面では、コミュニケーションが重要になるので、コミュニケーションスキルの向上を目指す学生の履修を希望する。 事前に予習をおこない、講義後はその内容を再び考察し直す復習を毎回繰り返して、「質的観察」の実際を理解して、同時にコミュニケーションスキルをアップすること。最終講義においては、習熟度を確認するため、フィードバックをおこなう。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とそ の時間	ALが中心になるので、「質的観察」を積極的に様々な場所で実践することが重要となる。講義中には、その結果のグループ報告や全体報告をするので、講義以外の予習（観察）復習（まとめ）などが非常に重要になる。なお、予習・復習には、最低でも90分以上の自己学修が必要である。						
オフィスアワー	6号館3階個人研究室において、毎週水曜日5時限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	本演習全体の概要（オリエンテーション）					石田 敦	
第2回	観察の定義					石田 敦	
第3回	実験と観察の区別					石田 敦	
第4回	観察力と洞察力の区別					石田 敦	
第5回	視点の持ち方					石田 敦	
第6回	着眼点の持ち方					石田 敦	
第7回	比較軸の重要性					石田 敦	
第8回	知覚の統合					石田 敦	
第9回	情報化時代における観察力					石田 敦	
第10回	「目に見えないもの」を推測する力					石田 敦	
第11回	クリティカルシンキング・ラテラルシンキング					石田 敦	
第12回	社会現象に対する観察					石田 敦	

第13回	人間行動に対する観察	石田 敦
第14回	自然災害場面に対する観察	石田 敦
第15回	振り返りとまとめ	石田 敦
第16回		
教科書		
教・書籍名1	観察力の鍛え方 一流のクリエイターは世界をどう見ているのか	教・出版社名1 SB新書
教・著者名1	佐渡島庸平	教・ISBN1 978-4797398229
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1		参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	相談援助実習指導Ⅱ			担当者	松原 浩一郎		
配当学科・研究科	2015～2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 社福3年			ナンバリング	HS-SW-3-606		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	金曜5限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	相談援助実習を終えて、具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。最初に、実習中に達成できず、実習後に残され学習課題を明らかにして、この講義終了までに課題達成のための具体的な学修目標や実践計画をたて、課題を達成することを目指す。また、具体的な実習体験を、報告会において発表して、さらに実習報告集にまとめることを通して、自らの実践をより客観化して対人援助について相対的に理解する。また、他分野他領域の実習報告に触れることにより、自らの実習体験との比較をしてその共通性や相違性に気づき、スペシフィックな視点をジェネリックな知識へと広げることを目指す。達成目標は、実習報告集の作成と、実習報告会の発表ができるようになる。また講義最初に作成した学習目標や実践計画については、適時各自学修や実践を展開し、最後に報告を行い、達成できたかどうかを振り返る。						
授業概要	相談援助実習後のまとめを行う。原則はグループごとに振りかえりを行い、実習報告会で発表し、その後実習報告集を書き上げる。くわえて事後課題として残された自己の課題を明らかにして、春学期をとおしてその克服のための自己学修（取り組み）を行う。最終講義において、残された課題として明らかにされた事項の報告と達成について発表をおこないフィードバックを実施する。 実習報告会には、それぞれの実習先社会福祉施設・医療機関（病院）で社会福祉士の業務にかかわる実務経験のある実習指導者を外部講師として招き、実習のふり返りを（フィードバック）実施して、社会福祉士の業務の現状や課題および、必要とされる知識や能力についてさらなる理解を深める。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	実習報告会の内容および実習報告集の内容により評価をおこなう。報告会の準備が期日までにできなかつたり、報告集の原稿を完成できなかったらその時点で不可となる。報告会の内容は40%、報告集の内容は40%の評価基準となる。残りの20%については、毎回の講義への参加態度や実習後課題設定・解決シートの記入とその取り組みおよび報告会の内容で評価する。 どの報告においても、各自の実践内容が、具体的に述べられていることと、客観的な視点から実践を総括しているが重要となる。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	フィードバックは、実習報告会において実習指導者と担当教員が、報告内容について行う。実習報告集については、担当教員が添削をとおして実施する。また、事後学修課題シートの作成と実施についても、随時フィードバックをおこない、課題達成状況の確認を行う。						
履修条件・注意事項	報告会の発表原稿作成やレジメの作成および報告集の原稿作成などについては、講義の中で十分な時間がとれないので、自宅における予習・復習を怠らずに、提出期限を厳守すること。なお、予習・復習にはそれぞれおおむね90分以上の時間を要する。また、講義途中と最終にフィードバックを口頭試問で行い、習熟度を確認する。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	実習報告会のレジメ作り、プレゼンテーションのスライド作成、および実習報告書の作成、実習後自己課題の発表レジメ等の作成は、基本的には講義中には行わないので、各自自己学修として作成することになる。特に実習後自己課題については、自己で具体的な課題を明らかにして、春学期中にその課題に対する取り組みを行うことになり、途中経過を報告して教員から指導を受ける以外はすべてが自己学修となる。自己学修に費やす時間は、概ね予習と復習にそれぞれ2時間程度は必要である。						
オフィスアワー	月曜日終日6号館3階6307研究室において対応する。						
授業計画						担当者	
第1回	実習プログラムのふり返り、自己評価実施、コンピテンシシート記入。					松原浩一郎	

第2回	実習ふり返しシートの記入、評価表の記入。	松原浩一郎	
第3回	実習関連科目のふり返しおよびふり返しシートの発表、実習報告会要項を指導する。	松原浩一郎	
第4回	自己課題シート（事後学修）の検討を行い、指導により書き込みをする。	松原浩一郎	
第5回	スペシフィックからジェネリックへの転換について、グループワークを行う。	松原浩一郎	
第6回	実習報告会の発表原稿を作成する。	松原浩一郎	
第7回	実習報告会の発表原稿を完成させる。	松原浩一郎	
第8回	模擬実習報告会を実施する。	松原浩一郎	
第9回	実習報告会を実施する。実習指導者からのフォローアップ（フィードバック）指導を受ける。	松原浩一郎・実習指導者	
第10回	実習報告集の作成に向けて、自己の実習を総括、フィードバックを実施する。	松原浩一郎	
第11回	実習報告書を作成する。	松原浩一郎	
第12回	実習報告集を完成させる。	松原浩一郎	
第13回	事後学修について教員と検討してまとめる。	松原浩一郎	
第14回	事後学修報告（会）の原稿を完成させる。	松原浩一郎	
第15回	事後学修報告（会）の開催	松原浩一郎	
第16回	事後学修報告会のふりかえり・フィードバック	松原浩一郎	
教科書			
教・書籍名1	社会福祉士相談援助実習第2版	教・出版社名1	中央法規出版
教・著者名1	長谷川匡俊 他	教・ISBN1	978-4-8058-3952-2
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	相談援助演習Ⅱ			担当者	松原 浩一郎			
配当学科・研究科	2015～2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 福祉 3年			ナンバリング	HS-SW-3-609			
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	演習	
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	金曜3限		
ディプロマポリシー対応項目								
DP1. 知識・技能	△	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと 論理的な思考	○	DP4. コミュニケー ション・表現力	◎	
DP5. グローバルな視 野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目		
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 							
到達目標	テーマは、社会福祉士の相談支援に必要な知識、技術の習得であり、特に、相談援助実習の体験の振り返りによるそれらの意義付けである。到達目標はこれまでに習得した知識を相談援助実習における経験と関連付けを行うことにより、より具体的かつ確実な知識として身に付けられることである。そして、総合的かつ包括的な相談支援を具体的にを行うための最低限のスキルが身に付けられることである。							
授業概要	社会福祉士として相談支援に必要な知識を、ロールプレイ、事例、ディスカッション等により深めていく。これまでの実習経験を振り返りながら、受講生各自の個別の支援能力の課題にも向き合い、振り返りを行っていく。また授業は、個別指導とグループ指導とを組み合わせながら行なう。相談援助実習での自らの体験を活かすため、各自の実習日誌等の記録資料を活用する。授業は、2時限連続で行う。							
アクティブラーニングの 内容	ディスカッション／ディベート／グループワーク							
評価方法と割合	評価は、講義態度や質疑応答の積極性（80％）、提出されたレポート（20％）等から総合的に行なう。レポート課題はすべて返却し、内容の解説を行う。							
ルーブリック評価								
課題や試験のフィード バック方法	提出されたレポート課題はすべて返却し、それをとおしてフィードバックを行う。また、演習中随時必要に応じて、実習中の事例と関連付けて考察を深めることを求める。それに付随してフィードバックを行う。							
履修条件・注意事項	本演習は、社会福祉士国家試験受験資格取得に必須の科目である。履修生各自の主体的で積極的な参加を求める。演習授業であることから、自分の意見を積極的に発言することが期待される。事前に指示された内容に関する予習や、事後の確認のための復習も重要となる。テーマに応じて、レポートも課せられるため、自身の行動や考えを記述によって明示することにも留意が必要である。学ぶべきテーマを伝えるので、予習・復習に継続的に取り組むよう求める。							
実務経験のある教員	該当しない	内容						
事前学習・事後学習とそ の時間	演習時の終わりに次回のテーマと内容、課題を提起する。次回に向けた準備を必ず行って演習に臨むこと。また、課題レポートがあるため、その準備に向けて復習が求められる。毎回の振り返りシートは事前事後の準備によって、内容の充実が図られることを忘れずに予習復習に臨むこと。なお、予習・復習には各2時間程度を要する。							
オフィスアワー	月曜日終日6号館3階6307研究室において対応する。							
授業計画						担当者		
第1回	相談援助演習の目的を理解して、その意義を明らかできるようにする。						松原浩一郎	
第2回	社会的排除の事例を用いて、その実際を理解して、実習との関連で考察を深める。						松原浩一郎	
第3回	虐待の事例を用いて、その実際を理解して、実習との関連で考察を深める。						松原浩一郎	
第4回	低所得者の事例を用いて、その実際を理解して、実習との関連で考察を深める。						松原浩一郎	
第5回	ホームレスの事例を用いて、その実際を理解して、実習との関連で考察を深める。						松原浩一郎	
第6回	権利擁護等に関わる事例を用いて、その実際を理解して、実習との関連で考察を深める。						松原浩一郎	
第7回	相談援助の展開過程の実際を、自身の実習内容から振り返り、理解を深める。						松原浩一郎	
第8回	アセスメントと目標設定の実際を自身の実習内容から振り返り、理解を深める。						松原浩一郎	
第9回	プランニングの意義と実際を、自身の実習内容から振り返り、理解を深める。						松原浩一郎	
第10回	終結・アフターケアについて、自身の実習内容から振り返り、理解を深める。						松原浩一郎	
第11回	モニタリングの意義と方法を、自身の実習内容から振り返り、理解を深める。						松原浩一郎	
第12回	チームアプローチの意義と実際を、自身の実習内容から振り返り、理解を深める。						松原浩一郎	
第13回	ネットワーキングの意義と実際を、自身の実習内容から振り返り、理解を深める。						松原浩一郎	

第14回	地域資源の活用について、その意義と実際を自身の実習内容から振り返り、理解を深める。	松原浩一郎
第15回	これまでの学びから得た成果を発表して、ディスカッションを実施する。	松原浩一郎
第16回	発表の振り返りと総括をととしてフィードバックを行う。	松原浩一郎
教科書		
教・書籍名1	社会福祉士相談援助演習第2版	教・出版社名1 中央法規出版
教・著者名1	一般社団法人日本社会福祉士養成校協会編	教・ISBN1 978-4-8058-5123-4
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	ソーシャルワーク実践事例集	参・出版社名1 明石書店
参・著者名1	澤伊三郎	参・ISBN1 978-4-7503-2941-3
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	相談援助演習Ⅲ			担当者	松原 浩一郎		
配当学科・研究科	2015～2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 社福3年			ナンバリング	HS-SW-3-610		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	金曜4限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	△	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	<p>テーマは、社会福祉士の相談支援に必要な知識、技術の習得であり、特に、相談援助実習の体験の振り返りによるそれらの意義付けである。</p> <p>以下の2点を到達目標とする。</p> <p>(1) これまでに習得した知識を単なる記憶にせず、相談援助の場面において柔軟に活用できるようになる。</p> <p>(2) 社会福祉士に求められる多様な視点による課題検討力を培うことができる。</p>						
授業概要	社会福祉士として相談支援に必要な知識を、ロールプレイ、事例、ディスカッション等により深めていく。これまでの実習経験を振り返りながら、受講生各自の個別の支援能力の課題にも向き合い、振り返りを行っていく。また授業は、個別指導とグループ指導とを組み合わせながら行なう。相談援助実習での自らの体験を活かすため、各自の実習日誌等の記録資料を活用する。授業は、2時限連続で行う。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション/ディベート/グループワーク/プレゼンテーション						
評価方法と割合	評価は、講義態度や質疑応答の積極性(80%)、提出されたレポート(20%)等から総合的に行なう。レポート課題はすべて返却し、内容の解説を行う。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	提出されたレポート課題はすべて返却し、それをとおしてフィードバックを行う。また、演習中随時必要に応じて、実習中の事例と関連付けて考察を深めることを求める。それに付随してフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	本演習は、社会福祉士国家試験受験資格取得に必須の科目である。履修生各自の主体的で積極的な参加を求める。演習授業であることから、自分の意見を積極的に発言することが期待される。事前に指示された内容に関する予習や、事後の確認のための復習も重要となる。テーマに応じて、レポートも課せられるため、自身の行動や考えを記述によって明示することにも留意が必要である。学べきテーマを伝えるので、予習・復習に継続的に取り組むよう求める。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	演習時の終わりに次回のテーマと内容、課題を提起する。次回に向けた準備を必ず行って演習に臨むこと。また、課題レポートがあるため、その準備に向けて復習が求められる。毎回の振り返りシートは事前事後の準備によって、内容の充実が図られることを忘れずに予習復習に臨むこと。なお、予習・復習には各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	月曜日終日6号館3階6307研究室において対応する。						
授業計画						担当者	
第1回	相談援助演習の目的を理解して、その意義を明らかできるようにする。					松原浩一郎	
第2回	社会的排除の事例を用いて、その実際を理解して、実習との関連で考察を深める。					松原浩一郎	
第3回	虐待の事例を用いて、その実際を理解して、実習との関連で考察を深める。					松原浩一郎	
第4回	低所得者の事例を用いて、その実際を理解して、実習との関連で考察を深める。					松原浩一郎	
第5回	ホームレスの事例を用いて、その実際を理解して、実習との関連で考察を深める。					松原浩一郎	
第6回	権利擁護等に関わる事例を用いて、その実際を理解して、実習との関連で考察を深める。					松原浩一郎	
第7回	相談援助の展開過程の実際を、自身の実習内容から振り返り、理解を深める。					松原浩一郎	
第8回	アセスメントと目標設定の実際を自身の実習内容から振り返り、理解を深める。					松原浩一郎	

第9回	プランニングの意義と実際を、自身の実習内容から振り返り、理解を深める。	松原浩一郎
第10回	終結・アフターケアについて、自身の実習内容から振り返り、理解を深める。	松原浩一郎
第11回	モニタリングの意義と方法を、自身の実習内容から振り返り、理解を深める。	松原浩一郎
第12回	チームアプローチの意義と実際を、自身の実習内容から振り返り、理解を深める。	松原浩一郎
第13回	ネットワーキングの意義と実際を、自身の実習内容から振り返り、理解を深める。	松原浩一郎
第14回	地域資源の活用について、その意義と実際を自身の実習内容から振り返り、理解を深める。	松原浩一郎
第15回	これまでの学びから得た成果を発表して、ディスカッションを実施する。	松原浩一郎
第16回	発表の振り返りと総括をととしてフィードバックを行う。	松原浩一郎

教科書

教・書籍名1	社会福祉士相談援助演習第2版	教・出版社名1	中央法規出版
教・著者名1	一般社団法人日本社会福祉士養成校協会編	教・ISBN1	978-4-8058-5123-4
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	ソーシャルワーク実践事例集	参・出版社名1	明石書店
参・著者名1	澤伊三郎	参・ISBN1	978-4-7503-2941-3
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	基礎演習Ⅲ			担当者	石田 敦		
配当学科・研究科	2015～2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 福祉 2年			ナンバリング	HS-SW-2-620		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと 論理的な思考		DP4. コミュニケー ション・表現力	
DP5. グローバルな視 野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	9. 産業と技術革新の基盤をつくろう / 10. 人や国の不平等をなくそう 						
到達目標	<p>大学生としてのこれからの学習では基本的なプレゼンテーションの能力が必要とされる。高校までに習得してきたコンピューターに関する知識や技能をもとに、パソコンの基礎的なアプリケーションソフトを利用し、自由に自分の思いや考えを表現できるプレゼンテーション資料の作成に取り組む。そのために必要とされる最低限のスキルを習熟することがテーマである。</p> <p>自分の伝達したいことを的確にまた説得力を以て表現できるプレゼンテーション資料を作成できるようになることが到達目標である。</p> <p>目的と内容に即して、また聞き手・読み手の特性に応じて、適切な表現様式を用いたプレゼンテーション資料が作成でき、表現したいことの主旨が明瞭に表現できるようになることがラーニングアウトカムズである。</p>						
授業概要	用いるアプリケーションソフトは、Word、Excel、そしてPower Pointである。Wordでは、画面構成の理解、案内状・チラシの作成、論文・レポートの作成に取り組む。Excelでは、画面構成の理解、週間・月間予定表の作成、グラフの作成、比較的膨大なデータの整理・集計に取り組む。そしてPowerPointでは、画面構成の理解、ビジュアルな自己紹介カード・名刺の作成に取り組む。						
アクティブラーニングの内容	PBL/反転授業/プレゼンテーション/実習						
評価方法と割合	課題に対する提出物40%、提出物作成への取り組み態度30%、そしてディスカッションへの参加態度30%による総合評価。なお、提出物については事後にフィードバックを行うので、それらの控えをそろえておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	制作物に対し、コメントを行い、評価を行う。						
履修条件・注意事項	<p>授業には基本的には校内のパソコンルームを使用するが、使い慣れているパソコンがあれば、それを持参し使用してもよい。パソコンに慣れていない学生であっても受講できるように授業の進め方を工夫するので、不安は不要である。テキストは、一応下記に掲げておくが、受講生の能力を判断のうえ、改めて指示する。</p> <p>予習として、毎回次週の課題を指示するので、その範囲についてテキストをよく読んで、一通りソフトの操作を試みること。復習として、毎回終了した範囲を振り返り、自分で何らかの作品の作成に取り組んでみる。</p>						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	以下の通り、毎回の授業につき予習と復習にそれぞれ2時間を用いて取り組むこと。予習として、毎時間まえもってテキストや資料等に目を通し、疑問点を整理しておくこと。復習として、毎時間終えた範囲を振り返り、自分のノートにその内容を整理しておくこと。						
オフィスアワー	6号館3階個人研究室において、毎週水曜日5時限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	本演習の概要					石田 敦	
第2回	Wordの概要					石田 敦	
第3回	文書の作成					石田 敦	
第4回	Wordの画面構成					石田 敦	
第5回	文章の体裁					石田 敦	
第6回	ワードアートの挿入					石田 敦	
第7回	Excelの概要					石田 敦	
第8回	Excelの画面構成					石田 敦	

第9回	表の作成	石田 敦
第10回	関数入力	石田 敦
第11回	パワーポイントの概要	石田 敦
第12回	プレゼンテーションの作成	石田 敦
第13回	プレースホルダーの操作	石田 敦
第14回	図形の作成	石田 敦
第15回	まとめと振り返り	石田 敦
第16回		
教科書		
教・書籍名1	Office 2013 基本演習 Word/Excel/PowerPoint	教・出版社名1 日経BP社
教・著者名1	日経BP社	教・ISBN1 978-4822297299
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1		参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	基礎演習Ⅳ			担当者	石田 敦		
配当学科・研究科	2015～2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 福祉 2年			ナンバリング	HS-SW-4-621		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと 論理的な思考		DP4. コミュニケー ション・表現力	
DP5. グローバルな視 野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	9. 産業と技術革新の基盤をつくろう / 10. 人や国の不平等をなくそう 						
到達目標	<p>大学生としてのこれからの学習では基本的なプレゼンテーションの能力が必要とされる。高校までに習得してきたコンピューターに関する知識や技能をもとに、パソコンの基礎的なアプリケーションソフトを利用し、自由に自分の思いや考えを表現できるプレゼンテーション資料の作成に取り組む。そのために必要とされる最低限のスキルを習熟することがテーマである。</p> <p>自分の伝達したいことを的確にまた説得力を以て表現できるプレゼンテーション資料を作成できるようになることが到達目標である。</p> <p>目的と内容に即して、また聞き手・読み手の特性に応じて、適切な表現様式を用いたプレゼンテーション資料が作成でき、表現したいことの主旨が明瞭に表現できるようになることがラーニングアウトカムズである。</p>						
授業概要	用いるアプリケーションソフトは、Word、Excel、そしてPower Pointである。Wordでは、画面構成の理解、案内状・チラシの作成、論文・レポートの作成に取り組む。Excelでは、画面構成の理解、週間・月間予定表の作成、グラフの作成、比較的膨大なデータの整理・集計に取り組む。そしてPowerPointでは、画面構成の理解、ビジュアルな自己紹介カード・名刺の作成に取り組む。						
アクティブラーニングの内容	PBL/反転授業/プレゼンテーション/実習						
評価方法と割合	課題に対する提出物40%、提出物作成への取り組み態度30%、そしてディスカッションへの参加態度30%による総合評価。なお、提出物については事後にフィードバックを行うので、それらの控えをそろえておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	制作物に対し、コメントを行い、評価を行う。						
履修条件・注意事項	<p>授業には基本的には校内のパソコンルームを使用するが、使い慣れているパソコンがあれば、それを持参し使用してもよい。パソコンに慣れていない学生であっても受講できるように授業の進め方を工夫するので、不安は不要である。テキストは、一応下記に掲げておくが、受講生の能力を判断のうえ、改めて指示する。</p> <p>予習として、毎回次週の課題を指示するので、その範囲についてテキストをよく読んで、一通りソフトの操作を試みること。復習として、毎回終了した範囲を振り返り、自分で何らかの作品の作成に取り組んでみる。</p>						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	以下の通り、毎回の授業につき予習と復習にそれぞれ2時間を用いて取り組むこと。予習として、毎時間まえもってテキストや資料等に目を通し、疑問点を整理しておくこと。復習として、毎時間終えた範囲を振り返り、自分のノートにその内容を整理しておくこと。						
オフィスアワー	6号館3階個人研究室において、毎週水曜日5時限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	本演習の概要					石田 敦	
第2回	Wordの概要					石田 敦	
第3回	文書の作成					石田 敦	
第4回	Wordの画面構成					石田 敦	
第5回	文章の体裁					石田 敦	
第6回	ワードアートの挿入					石田 敦	
第7回	Excelの概要					石田 敦	
第8回	Excelの画面構成					石田 敦	

第9回	表の作成	石田 敦
第10回	関数入力	石田 敦
第11回	パワーポイントの概要	石田 敦
第12回	プレゼンテーションの作成	石田 敦
第13回	プレースホルダーの操作	石田 敦
第14回	図形の作成	石田 敦
第15回	まとめと振り返り	石田 敦
第16回		
教科書		
教・書籍名1	Office 2013 基本演習 Word/Excel/PowerPoint	教・出版社名1 日経BP社
教・著者名1	日経BP社	教・ISBN1 978-4822297299
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1		参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	社会福祉特論Ⅰ			担当者	松原 浩一郎		
配当学科・研究科	2015～2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 福祉 4年			ナンバリング	HS-SW-1-622		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	4年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	金曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと 論理的な思考		DP4. コミュニケー ション・表現力	
DP5. グローバルな視 野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	本講義では、社会福祉士国家試験合格に向けた力を涵養するために学生は以下の2点を培うことができる。また、到達目標として国家試験の合格にある。 (1) 社会福祉士に必要とされる法制度に関する知識 (2) 社会福祉士に必要とされる方法論に関する知識						
授業概要	社会福祉士国家試験合格に向けて模擬試験および解説を行うことで授業展開を図っていく。具体的には、社会福祉士国家試験受験科目19科目のうち、12科目の模擬試験を実施し、解説を行う。また、重要項目について、各自で学習ノートを作成し指導を行っていく。						
アクティブラーニングの 内容	反転授業／グループワーク						
評価方法と割合	講義最初に、前回の講義内容を小テストにおいて確認して、評価とする。講義においては、口頭で当該科目の基礎理論を質問しながら、関連事項も含めて、学生の習熟度を確認していく。それも単位認定（評価）の参考にする。くわえて、単位認定試験を実施する。また、学生各自が作成したノートについても評価の参考にする。そのため、自身の特性に応じた工夫をノートに反映させることが望ましい。この科目では社会福祉士国家試験合格に向けた力を涵養することを目的としていることから、毎回実施する小テスト（30）、単位認定試験（50％）によって総合的な評価を行う。口頭における質問への回答とノートの評価を20点（各10点）とする。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィード バック方法	小テストは、講義最初に、前回の講義内容を確認するために行うが、必要に応じてフィードバックをおこなう。くわえて、単位認定試験の翌週の講義において、解説をとおして、フィードバックを実施する。						
履修条件・注意事項	社会福祉士国家試験受験者の履修を基本とする。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とそ の時間	毎回、小テストを行うため、それに向けた予習を行うこと。予習には90分以上の時間を要する。また、小テストの結果は復習するだけでなく、国家試験の合格を目指す上での自己の特性を知るための資料として活用すること。このため復習にも90分以上の時間を要する。また、国家試験合格のために学修ノートの作成にも、相当の時間を要する。						
オフィスアワー	月曜日終日6号館3階6307研究室において対応する。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション、講義の進行方法や課題提出等を理解する。					松原浩一郎	
第2回	社会福祉士国家試験制度の概要を理解する。自身の学修計画を策定する。					松原浩一郎	
第3回	人体の構造と機能及び疾病の過去問を解き、その傾向を理解して対策を考える。					松原浩一郎	
第4回	心理学的理論と心理的支援の過去問を解き、その傾向を理解して対策を考える。					松原浩一郎	
第5回	社会理論と社会システムの過去問を解き、その傾向を理解して対策を考える。					松原浩一郎	
第6回	現代社会と福祉の過去問を解き、その傾向を理解して対策を考える。					松原浩一郎	
第7回	地域福祉の理論と方法の過去問を解き、その傾向を理解して対策を考える。					松原浩一郎	
第8回	福祉行財政と福祉計画の過去問を解き、その傾向を理解して対策を考える。					松原浩一郎	
第9回	社会保障の過去問を解き、その傾向を理解して対策を考える。					松原浩一郎	
第10回	障害者に対する支援と障害者総合支援法の過去問を解き、その傾向を理解して対策を考える。					松原浩一郎	
第11回	低所得者に対する支援と生活保護制度の過去問を解き、その傾向を理解して対策を考える。					松原浩一郎	
第12回	保健医療サービスの過去問を解き、その傾向を理解して対策を考える。					松原浩一郎	
第13回	権利擁護と成年後見制度の過去問を解き、その傾向を理解して対策を考える。					松原浩一郎	
第14回	高齢者に対する支援と介護保険制度の過去問を解き、その傾向を理解して対策を考える。					松原浩一郎	

第15回	単位認定試験実施	松原浩一郎	
第16回	単位認定試験の解答をとおりて、フィードバックを行う。	松原浩一郎	
教科書			
教・書籍名1	社会福祉士の合格教科書2022	教・出版社名1	医学評論社
教・著者名1	飯塚慶子	教・ISBN1	978-4-86399-377-8
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅲ			担当者	石田 敦		
配当学科・研究科	2015～2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 社福4年			ナンバリング	HS-SW-3-626		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3. 主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	1. 貧困をなくそう / 3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	ソーシャルワークは人の生活を支援することを目的としている。この行動を支えるべくソーシャルワークにはソーシャルワークの「価値」が存在する。ソーシャルワークはこの「価値」を根拠とし、その「価値」を実現していくことで人の幸福を達成しようとするものである。そして、この「価値」を根拠として、ソーシャルワーカーの行動を導く指針が「倫理」である。このソーシャルワークの土台ともなる価値と倫理についての理解を深め、ソーシャルワーク実践において、これらに基づく判断や行動ができるようになることを目標とする。						
授業概要	ソーシャルワークの価値と倫理について学習した後、事例を用いてグループワーク、ロールプレイ、ディスカッションなどの方法により、価値と倫理に基づくソーシャルワークの在り方についての考察を行う。また、倫理的ジレンマについて、構造および解決に向けての手順と方法を理解し、事例を用いて倫理的ジレンマの解決に取り組む。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	課題発表50%、グループワークへの参加態度50%の割合で総合的に評価を行う。なお、課題発表については事後にフィードバックを行うので、それらの資料をそろえておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	提出されたレポートについては、コメントを付し、返却する。						
履修条件・注意事項	学生自らが中心となる授業のため、積極的な姿勢をもって臨むこと。また、ソーシャルワークについて考える上で、現代日本における福祉問題、社会福祉に関係する法制度の理解が前提となるため、2年次までに関係する科目を履修し、十分に理解していること。なお各自発表する内容について予習を確実にし、発表は滞りなく行うようにすること。また発表終了後は、その内容を簡単にまとめ提出できるように復習すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	以下の通り、毎回の授業につき予習と復習にそれぞれ2時間を用いて取り組むこと。予習として、毎時間まえてテキストや資料等に目を通し、疑問点を整理しておくこと。復習として、毎時間終了した範囲を振り返り、自分のノートにその内容を整理しておくこと。						
オフィスアワー	6号館3階個人研究室において、毎週水曜日5時限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	ソーシャルワークの定義					石田 敦	
第2回	社会福祉サービス					石田 敦	
第3回	ソーシャルワーク関連の団体					石田 敦	
第4回	社会正義					石田 敦	
第5回	社会変革					石田 敦	
第6回	社会開発					石田 敦	
第7回	社会的結束					石田 敦	
第8回	エンパワメント					石田 敦	
第9回	解放					石田 敦	
第10回	人権					石田 敦	
第11回	診断主義					石田 敦	
第12回	機能主義					石田 敦	
第13回	混合型ソーシャルワーク					石田 敦	
第14回	バイステックの7原則					石田 敦	

第15回	振り返りとまとめ	石田 敦
第16回		
教科書		
教・書籍名1	社会福祉研究法—現実世界に迫る14レッスン	教・出版社名1 有斐閣
教・著者名1		教・ISBN1 4641123012
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1		参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	演習Ⅳ			担当者	石田 敦		
配当学科・研究科	2015～2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 社福4年			ナンバリング	HS-SW-3-627		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3. 主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	1. 貧困をなくそう / 3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	ソーシャルワークは人の生活を支援することを目的としている。この行動を支えるべくソーシャルワークにはソーシャルワークの「価値」が存在する。ソーシャルワークはこの「価値」を根拠とし、その「価値」を実現していくことで人の幸福を達成しようとするものである。そして、この「価値」を根拠として、ソーシャルワーカーの行動を導く指針が「倫理」である。このソーシャルワークの土台ともなる価値と倫理についての理解を深め、ソーシャルワーク実践において、これらに基づく判断や行動ができるようになることを目標とする。						
授業概要	ソーシャルワークの価値と倫理について学習した後、事例を用いてグループワーク、ロールプレイ、ディスカッションなどの方法により、価値と倫理に基づくソーシャルワークの在り方についての考察を行う。また、倫理的ジレンマについて、構造および解決に向けての手順と方法を理解し、事例を用いて倫理的ジレンマの解決に取り組む。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	課題発表50%、グループワークへの参加態度50%の割合で総合的に評価を行う。なお、課題発表については事後にフィードバックを行うので、それらの資料をそろえておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	提出されたレポートには、コメントを付し返却する。						
履修条件・注意事項	学生自らが中心となる授業のため、積極的な姿勢をもって臨むこと。また、ソーシャルワークについて考える上で、現代日本における福祉問題、社会福祉に関係する法制度の理解が前提となるため、2年次までに関係する科目を履修し、十分に理解していること。なお各自発表する内容について予習を確実にし、発表は滞りなく行うようにすること。また発表終了後は、その内容を簡単にまとめ提出できるように復習すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	以下の通り、毎回の授業につき予習と復習にそれぞれ2時間を用いて取り組むこと。予習として、毎時間まえもってテキストや資料等に目を通し、疑問点を整理しておくこと。復習として、毎時間終了した範囲を振り返り、自分のノートにその内容を整理しておくこと。						
オフィスアワー	6号館3階個人研究室において、毎週水曜日5時限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	ソーシャルワークの定義にまつわる問題					石田 敦	
第2回	社会福祉サービスの今日的動向					石田 敦	
第3回	社会変革への抵抗					石田 敦	
第4回	社会開発における資源の意味					石田 敦	
第5回	社会的結束の重要性					石田 敦	
第6回	エンパワメントに向けたソーシャルワーク実践					石田 敦	
第7回	解放の意義					石田 敦	
第8回	社会正義から見たソーシャルワークの歴史					石田 敦	
第9回	人権思想とソーシャルワークの思想					石田 敦	
第10回	ソーシャルワーク関連の団体とそれぞれの活動					石田 敦	
第11回	ソーシャルワークの一理論としての診断主義					石田 敦	
第12回	ソーシャルワークの一理論としての機能主義					石田 敦	
第13回	混合型ソーシャルワークの実践					石田 敦	
第14回	バイステックの7原則から見たソーシャルワーク実践の応用の意義					石田 敦	

第15回	振り返りとまとめ	石田 敦
第16回		
教科書		
教・書籍名1	社会福祉研究法—現実世界に迫る14レッスン	教・出版社名1 有斐閣
教・著者名1		教・ISBN1 4641123012
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1		参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	卒業研究Ⅰ			担当者	石田 敦		
配当学科・研究科	2015～2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 社福4年			ナンバリング	HS-SW-4-628		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	集中講義
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 10. 人や国の不平等をなくそう 						
到達目標	<p>「論文の作成」を基本テーマとする。具体的には、受講生各自が特定のテーマを決め、それらについて調査し、資料や文献を集め、一つの主張としてまとめることであり、個々の受講生が持っている関心や問題意識を論文という形態で完成できるようにすることである。</p> <p>論文のテーマの設定の理由ならびにそのオリジナリティおよびエビデンスが確認できることが到達目標である。設定された領域について詳しく調べる中で、研究目的、方法、結果を述べ、先人の研究成果や意見と自分のそれらを比較して論じ、これまでの研究を更に発展させるべき分野をみきわめられることが期待される。</p>						
授業概要	<p>ソーシャルワーク論の領域を中心としながら、個々の学生の関心に一致した内容を研究する。特に、論文の作成に至る詳細な過程を学習できるように、テーマの設定、先行研究の検索、必要な文献の引用、そして実際の文章構成に至るまでを扱う。机上の論議や抽象的な論議を排するため、社会福祉の現場にも出向くようにし、必要なデータの収集の方法やそれらの処理の方法についても学習しながら、論文作成に努めるようにする。授業の計画はあるものの、個々の学生の論文の作成過程の進展に即して、発表と論議を中心にして進めていきたい。</p>						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	論文の作成の過程における努力に対する評価として授業中の発表が20%、完成した論文が80%として評価する。なお、論文については事後にフィードバックを行うので、それらの内夜をよく瑠璃帰しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	提出されたレポートには、コメントを付して返却する。また発表に際しては、事後に評価を行いそれを示す。						
履修条件・注意事項	各自の意欲に大いに期待したい。求める者には最大限指導する。必要なテキスト、資料等については、適宜指示する。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	指定の教科書に基づいて、毎回の授業につき予習と復習にそれぞれ2時間を用いて取り組むこと。予習として、毎時間まもってテキストや資料等に目を通し、疑問点を整理しておくこと。復習として、毎時間終了した範囲を振り返り、自分のノートにその内容を整理しておくこと。						
オフィスアワー	6号館3階個人研究室において、毎週水曜日5時限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	論文作成の着眼点					石田 敦	
第2回	論文テーマの選び方					石田 敦	
第3回	テーマについての先行研究の検索法					石田 敦	
第4回	図書館の利用法					石田 敦	
第5回	先行研究に対する評価の方法					石田 敦	
第6回	収集された文献の整理法					石田 敦	
第7回	これまでのまとめと発表					石田 敦	
第8回	発表に対する振り返り					石田 敦	
第9回	論文における仮説の在り方					石田 敦	
第10回	論文における考察の方法					石田 敦	
第11回	論文の論述の方法					石田 敦	
第12回	これまでの振り返り					石田 敦	
第13回	これまでの内容に基づく発表					石田 敦	

第14回	発表に基づく反省	石田 敦
第15回	残された課題・今後の課題	石田 敦
第16回		
教科書		
教・書籍名1	よくわかる卒論の書き方 (やわらかアカデミズム・わかるシリーズ)	教・出版社名1 ミネルヴァ書房
教・著者名1	白井利明	教・ISBN1 4623065723
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1		参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	卒業研究Ⅱ			担当者	石田 敦		
配当学科・研究科	2015～2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 社福4年			ナンバリング	HS-SW-4-629		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 10. 人や国の不平等をなくそう 						
到達目標	<p>「論文の作成」を基本テーマとする。具体的には、受講生各自が特定のテーマを決め、それらについて調査し、資料や文献を集め、一つの主張としてまとめることであり、個々の受講生が持っている関心や問題意識を論文という形態で完成できるようにすることである。</p> <p>論文のテーマの設定の理由ならびにそのオリジナリティおよびエビデンスが確認できることが到達目標である。設定された領域について詳しく調べる中で、研究目的、方法、結果を述べ、先人の研究成果や意見と自分のそれらを比較して論じ、これまでの研究を更に発展させるべき分野をみきわめられることが期待される。</p>						
授業概要	<p>ソーシャルワーク論の領域を中心としながら、個々の学生の関心に一致した内容を研究する。特に、論文の作成に至る詳細な過程を学習できるように、テーマの設定、先行研究の検索、必要な文献の引用、そして実際の文章構成に至るまでを扱う。机上の論議や抽象的な論議を排するため、社会福祉の現場にも出向くようにし、必要なデータの収集の方法やそれらの処理の方法についても学習しながら、論文作成に努めるようにする。授業の計画はあるものの、個々の学生の論文の作成過程の進展に即して、発表と論議を中心にして進めていきたい。</p>						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	論文の作成の過程における努力に対する評価として授業中の発表が20%、完成した論文が80%として評価する。なお、論文については事後にフィードバックを行うので、それらの内夜をよく瑠璃帰しておくこと。						
ループリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	提出されたレポートには、コメントを付して返却する。また発表に際しては、事後に評価を行いそれを示す。						
履修条件・注意事項	各自の意欲に大いに期待したい。求める者には最大限指導する。必要なテキスト、資料等については、適宜指示する。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	指定の教科書に基づいて、毎回の授業につき予習と復習にそれぞれ2時間を用いて取り組むこと。予習として、毎時間まもってテキストや資料等に目を通し、疑問点を整理しておくこと。復習として、毎時間終了した範囲を振り返り、自分のノートにその内容を整理しておくこと。						
オフィスアワー	6号館3階個人研究室において、毎週水曜日5時限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	論文作成の着眼点を深める					石田 敦	
第2回	論文テーマの選び方についての考察					石田 敦	
第3回	テーマについての先行研究の検索法の検討					石田 敦	
第4回	図書館の活用法					石田 敦	
第5回	先行研究に対する評価のとらえ方					石田 敦	
第6回	収集された文献の整理法					石田 敦	
第7回	これまでのまとめと発表					石田 敦	
第8回	発表に対する振り返り					石田 敦	
第9回	論文における仮説の在り方					石田 敦	
第10回	論文における考察の方法					石田 敦	
第11回	論文の論述の方法					石田 敦	
第12回	これまでの振り返り					石田 敦	
第13回	これまでの内容に基づく発表					石田 敦	

第14回	発表に基づく反省	石田 敦
第15回	残された課題・今後の課題	石田 敦
第16回		
教科書		
教・書籍名1	よくわかる卒論の書き方 (やわらかアカデミズム・わかるシリーズ)	教・出版社名1 ミネルヴァ書房
教・著者名1	白井利明	教・ISBN1 4623065723
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1		参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2